

(様式第 9)

平成 2 4 年

関東信越厚生局長 殿

開設者名 大山 喬

東京医科歯科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	117 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	246人	333人	542.8人	看護補助者	26人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	11人	臨床検査技師	78人
薬 剤 師	35人	14人	48.1人	作業療法士	5人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	7人	そ の 他	人
助 産 師	14人	2人	15.4人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	689人	18人	702.6人	臨床工学技士	16人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	人	人	人	栄 養 士	人	そ の 他 の 技 術 員	11人
歯科衛生士	人	人	人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	67人
管理栄養士	3人	6人	7.9人	診療放射線技師	36人	そ の 他 の 職 員	4人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	641.0 人	0 人	641.0 人
1日当たり平均外来患者数	2,197.9 人	0 人	2,197.9 人
1日当たり平均調剤数	(外来) 244.3 剤	(入院) 531.0 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	25	人
当該医療技術の概要	造血器腫瘍に対する移植治療			
医療技術名	ゼバリン	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	悪性リンパ腫に対する免疫放射線療法			
医療技術名	難治性成人発症スティル病に対する生物学的製剤の使用	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	ステロイド単独もしくは免疫抑制薬併用による治療に反応が不十分で、ステロイドの減量が困難な難治性病態を有する患者、または副作用のためにステロイドや免疫抑制薬による治療が十分に行えず、疾患の良好なコントロールが得られない患者に対して、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	難治性高安動脈炎に対する生物学的製剤の使用	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	ステロイド単独もしくは免疫抑制薬併用による治療に反応が不十分で、ステロイドの減量が困難な難治性病態を有する患者、または副作用のためにステロイドや免疫抑制薬による治療が十分に行えず、疾患の良好なコントロールが得られない患者に対して、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	難治性ANCA関連血管炎・全身性エリテマトーデス・関節リウマチに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	難治性の病態を有するリウマチ性疾患のうち、ANCA関連血管炎や全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)においては、リツキシマブの有効性が報告されている。そこで、ANCA関連血管炎やSLE、RAなどのリウマチ性疾患患者のうち、本邦で現在承認されている既存治療では原疾患の良好なコントロールが得られない難治性病態を有する患者、または副作用のために既存治療が十分に使用できず、原疾患の良好なコントロールが得られない患者を対象にリツキシマブの投与を行った。			
医療技術名	持続血糖測定(CGM)システム	取扱患者数	31	人
当該医療技術の概要	腹部皮下にセンサーを挿入して皮下の組織間質液の糖濃度を24時間継続的に測定する。			
医療技術名	副腎静脈サンプリング	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	原発性アルドステロン症の部位診断法。放射線科との協力の元、左右副腎静脈より採血し副腎静脈アルドステロン濃度を測定しアルドステロン過剰産生の責任病変を部位診断する			
医療技術名	腎臓疾患および体液制御の異常に関わる危険遺伝子および遺伝子変異	取扱患者数	24	人
当該医療技術の概要	腎臓疾患および体液制御の異常に関わる危険遺伝子および遺伝子変異の同定として、腎性尿崩症・ギテルマン症候群・バーター症候群・腎性低尿酸血症そして偽性低アルドステロン症Ⅱ型を含む24例に対して、遺伝子解析をおこなった。			
医療技術名	高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルを用いた冠動脈形成術	取扱患者数	18	人
当該医療技術の概要	微少のダイヤモンド粒子でコーティングされた先端チップ(Burr)とそのBurrを回転させる駆動シャフトから構成され、Burrを15~19万回転/分で高速回転することにより、冠動脈のアテローム性プラークを切削する。			

医療技術名	光干渉断層法 (OCT)	取扱患者数	55	人
当該医療技術の概要	近赤外線を用いて冠動脈内膜の詳細を観察し、経皮的冠動脈インターベンションの補助を行う画像診断法。			
医療技術名	肺静脈隔離術	取扱患者数	88	人
当該医療技術の概要	心房細動の起源となる肺静脈からの期外収縮の伝導を抑えるため、左心房と肺静脈の間をカテーテルを用いて電氣的に隔離する治療方法。			
医療技術名	Electro-anatomicalマッピング法 (CARTO system)	取扱患者数	80	人
当該医療技術の概要	カテーテルによる心内電位と磁気を利用して得られるカテーテルの位置情報をコンピュータ上で融合し、心臓の立体的構造を把握し、カテーテルアブレーションの補助とする画像診断法。			
医療技術名	エンサイトマッピング	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	心内膜電位を心腔の形状に合わせてカラーマッピングし、カテーテルアブレーションの補助とする画像診断法。			
医療技術名	心臓再同期療法	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	重症心不全に対し右室、左室両方をペーシングし、血行動態の改善を図るペースメーカー治療			
医療技術名	難治性高安動脈炎に対する免疫抑制剤、生物学的製剤による治療	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	通常ステロイド治療が無効な難治例に対して、免疫抑制剤、生物学的製剤による治療を行い高い奏効率を認めている。			
医療技術名	重症心不全に対する対外設置型人工心臓植え込み後の長期管理	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	心臓外科で人工心臓を植え込んだ重症心不全患者の心臓移植待機期間中の内科管理を行っている。当施設は心臓移植実施施設以外では、都内で唯一の植え込み型人工心臓実施施設であり、心臓外科と共同して植え込み後の管理を行っている。治療成績も良好である。			
医療技術名	閉塞性末梢動脈疾患にたいする末梢血単核球移植による治療	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	重症虚血肢患者にたいし、自己の末梢血より単核球を分離し虚血肢に投与することで、血管新生、創傷治癒を促進する。			
医療技術名	MR enterocolonography (MREC)	取扱患者数	127	人
当該医療技術の概要	前処置および撮影方法の工夫により、一回の検査で小腸および大腸を同時に評価するMR検査。主な適応疾患はクローン病			
医療技術名	IL28B遺伝子近傍の1遺伝子多型の測定	取扱患者数	500	人
当該医療技術の概要	C型肝炎に対するインターフェロ療法の治療効果を規定する1遺伝子多型を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			

医療技術名	C型肝炎ウイルスコア領域・ISDRの遺伝子変異測定	取扱患者数	1000	人
当該医療技術の概要	C型肝炎に対するインターフェロ療法の治療効果を規定すC型肝炎ウイルス変異を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			
医療技術名	ダブルバルーン胆道内視鏡(DBERC)	取扱患者数	60	人
当該医療技術の概要	ダブルバルーン内視鏡により、通常の方法では到達が困難な術後などの症例に対し胆道鏡を行う検査			
医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	同種骨髄、臍帯血を移植することにより、難治性白血病や、遺伝子異常に起因する先天性免疫不全症の根治治療をする。(移植例の中にはHLA2抗原不一致の母親からの骨髄移植例も含む。)			
医療技術名	先天性免疫不全症患者、抗がん剤治療患者あるいは移植患者における網羅的ウイルスPCR法による感染モニタリングとそれに基づく早期治療介入	取扱患者数	40	人
当該医療技術の概要	少量の末梢血(1ml)中のウイルスを網羅的ウイルスPCR法にて増幅し、定量的に検出する。この検査により免疫不全状態で再活性化されるウイルスを速やかに検出して、早期治療介入することによりウイルス感染の治療および重症化阻止に役立てることができる。			
医療技術名	毛細血管拡張性運動失調症での運動失調改善を目指した臨床試験	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	毛細血管拡張性運動失調症での運動失調改善を目指し少量ステロイド療法を行い、その有効性、および安全性を検討している。			
医療技術名	低年齢児に対する全身麻酔下経皮的腎臓針生検	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	1歳の症例に対して、全身麻酔下でエコーガイドのもと経皮的腎生検を施行した。体格が小さいだけでなく、腎臓のサイズも小さいので他臓器の穿刺等の合併症に細心の注意をはらいつつ検査を施行した。			
医療技術名	非典型的溶血性尿毒症症候群に対するエクリズマブによる治療	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	非典型的溶血性尿毒症症候群は溶血性尿毒症症候群のうち1割未満であるとされているが、血漿交換等の治療を行っても死亡するか末期腎不全となってしまう症例が多く、非常に予後の悪い疾患である。今回、欧米における治療報告が散見されるエクリズマブを使用したところ劇的に症状が改善し、末期腎不全へと至ることもなく、通常の生活に戻ることができた。尚、治療開始前に、当院の治験審査委員会の承認を得た。非典型的溶血性尿毒症症候群に対するエクリズマブ治療は本邦で2例目である。			
医療技術名	乳癌における皮下乳腺全摘と腹部穿通枝脂肪弁を用いた同時再建	取扱患者数	8	人
当該医療技術の概要	乳癌手術では、乳房皮膚を温存し全乳腺を切除する。その全乳腺の代用として腹部の脂肪を遊離移植(マイクロを用いた血管吻合あり)し、乳癌手術と同時に再建を行う。(形成外科との協力)			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	8	人
当該医療技術の概要	開腹手術ではなく鏡視下で行なう。			
医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部切除術	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	開腹手術ではなく鏡視下で行なう。			

医療技術名	難治性てんかんに対する迷走神経刺激	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	迷走神経刺激による難治性てんかん手術			
医療技術名	術中脳波、ナビゲーションシステム等マルチモダリティーによるてんかん焦点切除	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	FMZ-PET・FDG-PETガイド、術中脳波等のマルチモダリティーによるてんかん焦点切除術			
医療技術名	頭頸部・頭蓋底手術	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	頭頸部外科・形成外科・耳鼻咽喉科とのチームにて行う頭蓋底腫瘍摘出術			
医療技術名	Met-PETガイド悪性脳腫瘍摘出術	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	アミノ酸代謝PET結果をガイドに摘出			
医療技術名	非造影MRIによるASL perfusion MRI	取扱患者数	80	人
当該医療技術の概要	造影剤を用いない、MRIによる脳血流評価			
医療技術名	治療が困難な脳動脈瘤に対する頭蓋内血管ステントを用いた脳動脈瘤の血管内手術	取扱患者数	6	人
当該医療技術の概要	これまで開頭術、血管内手術ともに治療が困難であった脳動脈瘤に対して、近年開発されたVasucular reconstruction device (頭蓋内ステント)を用いて母血管の交通性を確保し、動脈瘤を閉塞させる技術である。極めて低侵襲的で患者に負担が少なく、画期的な高度医療技術である。			
医療技術名	内頸動脈完全閉塞(Carotid total occlusion)に対する経皮的血管形成再開通手術	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	これまで内頸動脈完全閉塞症に対する血行再建治療は、外科的な開頭術を用いた頭蓋内外の血管バイパス術が行われていた。本技術はこのような症例に対し、先進的な血管内手術手技及びデバイスを用いて、閉塞した内頸動脈を再開通させ、脳血流を回復させる技術である。逆行性の血行再建であるバイパス術に対して、生理的な順行性の血流が得られる点で画期的であり、極めて低侵襲的で患者に負担が少ない高度医療技術である。			
医療技術名	頭頸部腫瘍に対する内視鏡を併用した腫瘍塞栓術	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	頭頸部領域の腫瘍は広範に進展し、血管成分に富むものが多い。外科治療はinterdisciplinaryなアプローチが必要で、血管内治療はその一翼を担っている。この腫瘍では従来のカテーテルを用いた塞栓術では十分な治療効果が得られないものがある。そのような症例でカテーテル塞栓術に加え、内視鏡観察下に3次元ロードマッピングを用いて鼻腔内で腫瘍を直接穿刺し、塞栓物質を注入して腫瘍を塞栓する外術である。先進的な血管撮影装置、高度な3次元シミュレーションシステム、高精細内視鏡システムを要する高度医療技術である。			
医療技術名	脊髄誘発磁界測定による脊髄機能診断	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	脊髄の電気活動が発生するごく微弱な磁界を測定し、脊髄機能を体表面から診断する技術。			

医療技術名	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄・末梢神経機能モニタリング	取扱患者数	100	人
当該医療技術の概要	脳を経頭蓋電気刺激し四肢の筋より筋誘発電位を測定することで、全身麻酔手術中に脊髄や末梢神経の機能をモニタリングし、安全に脊椎や股関節手術をおこなう技術。			
医療技術名	人工骨と自己骨髄血を用いた、骨採取の必要のない脊椎固定術	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	脊椎固定術をハイドロキシアパタイト人工骨および自己骨髄血を用いてを行うことで、術後の採骨部痛を起こさない技術。			
医療技術名	術中CTを併用した脊椎手術	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	脊椎手術中にCT撮影を行うことで、骨切除やスクリュー刺入の精度を高めたより安全な手術をおこなう技術。			
医療技術名	一期的両側人工股関節置換手術	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	人工股関節置換手術を一度の麻酔のもとで、左右同日に行い、術後早期の回復と入院期間短縮を可能にする			
医療技術名	神経機能モニタリング下の人工股関節置換手術	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	下肢延長を伴う人工股関節置換手術において、下肢末梢神経延長に伴う麻痺を防止する技術			
医療技術名	滑膜幹細胞移植術	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	自己滑膜から間葉系幹細胞を分離増殖させ、関節鏡視下に軟骨欠損部に移植する。			
医療技術名	膝前十字靭帯2重束再建術	取扱患者数	89	人
当該医療技術の概要	膝屈筋腱を2重束とし、関節鏡視下に解剖学的に前十字靭帯を再建する。			
医療技術名	膝複合靭帯損傷	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	膝複合靭帯損傷に対し鏡視下に靭帯を再建する。			
医療技術名	両側同時人工膝関節置換術	取扱患者数	37	人
当該医療技術の概要	人工膝関節置換術を両側同時に施行する。			
医療技術名	ミニマム創内視鏡下手術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	243	人
当該医療技術の概要	ガスレス・シングルポート・後腹膜アプローチの低コストをみたく先端的低侵襲手術。対象臓器はすべての泌尿器科臓器(副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺)。頭部装着型立体ディスプレイを用いたガスレス・シングルポート・ロボサージャン型手術を開発し、2011年途中より行っている。			

医療技術名	浸潤性膀胱癌の膀胱温存療法	取扱患者数	17	人
当該医療技術の概要	浸潤性膀胱癌の標準的根治治療は膀胱全摘であるが、一部の患者では膀胱を摘出せずに完治可能であることが知られている。根治性を損なわずに膀胱温存が可能と判断される、転移のない浸潤性膀胱癌患者に対しては、低侵襲な集学的治療(低用量化学放射線療法+ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除および骨盤リンパ節郭清)による膀胱温存療法を行っている。			
医療技術名	腎癌の無阻血低侵襲腎部分切除術	取扱患者数	65	人
当該医療技術の概要	小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となるが、通常は出血をコントロールする目的で術中に腎血流遮断が行われ、術後腎機能低下のリスクがある。術後の腎機能を良好に保つために、腎血流を遮断しない術式を開発し、施行している。			
医療技術名	前立腺立体標的針生検	取扱患者数	201	人
当該医療技術の概要	前立腺癌疑いにおけるMRIと立体生検(経直腸生検と経会陰生検の併用)を組み合わせた最高質の生検方法。効率的な癌の検出、検出された癌に対するきめ細かな治療計画が可能となる。			
医療技術名	前立腺癌の前立腺部分治療	取扱患者数	16	人
当該医療技術の概要	限局性前立腺癌の根治療法(前立腺全摘除、放射線療法)は治療による合併症やQOL低下を伴う場合がある。一方、積極的待機療法(無治療経過観察)も標準治療法の一つであるが、根治の機会を逃す可能性への不安を伴う場合も少なくない。十分な治療効果を持ち、かつ合併症の少ない治療法として、前立腺の左右の片側のみを治療する前立腺部分治療を適応を満たす患者に導入している。			
医療技術名	腎癌ICCA療法	取扱患者数	73	人
当該医療技術の概要	インターフェロン α にシメチジン、COX-2阻害剤、アンギオテンシンII受容体拮抗剤を加えたI-CCA療法は、転移を有する、あるいは手術を行うことが困難な、進行した腎がんの患者が対象となる。本療法は、分子標的治療薬と同等の効果が期待でき、副作用はより軽度で、かつ低コストな治療である。			
医療技術名	前立腺全摘時の単径ヘルニア防止術	取扱患者数	52	人
当該医療技術の概要	前立腺全摘後に生じる単径ヘルニアの頻度は無視できない。前立腺全摘時に単径ヘルニア発症を予防する手技(腹膜鞘状突起切断法)を開発し、これにより単径ヘルニア発症率の低下を得ている。			
医療技術名	埋め込み型骨導補聴器による聴覚回復	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	両側の外耳道が未発達あるいは低形成の例、鼓室形成術等の手術で聴力の改善がみられない両側難聴例、耳漏が持続しているため通常の補聴器装用が困難な例を対象とする。手術では、耳後部の頭蓋骨内にチタン性の長さ3ないし4mmのスクリューを埋め込み、このスクリューの一部を皮膚の外に露出させる。この外部のスクリューに、骨導補聴器を装着してコミュニケーションを行う。			
医療技術名	頭蓋底手術	取扱患者数	24	人
当該医療技術の概要	頭蓋内外にわたる領域の腫瘍性病変の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			
医療技術名	咽頭癌の経口腔的切除術(ELPS)	取扱患者数	35	人
当該医療技術の概要	咽頭の表在癌に対する経口腔的切除術は、低侵襲治療として有用である。先進的な治療であり高度の医療技術が必要である。			
医療技術名	聴器癌の手術治療	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	聴器癌の手術には耳科および頭頸部外科双方の専門的知識と手術技術が必要であり、治療可能施設は限られている。			

医療技術名	頭頸部癌化学放射線療法	取扱患者数	75	人
当該医療技術の概要	頭頸部癌に対する化学放射線療法は、高い効果が得られるが、有害事象も多い。高度の治療管理技術と高度の管理体制の整備が必要である。			
医療技術名	神経筋疾患の遺伝子診断	取扱患者数	165	人
当該医療技術の概要	当科では、本学に受診された患者さんに必要な遺伝子診断を行っている。さらに、国内・海外からの依頼も受けており、2011年は国内からの依頼検体のみで165名(一人につき最大6個の異なる疾患の遺伝子変異を検査)の患者につき、1患者当たり6種類までの遺伝子診断を行うこともあるため、のべ500件に上る遺伝子診断を行った。			
医療技術名	多系統萎縮症に対する先進治療:リファンピシン療法	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	多系統萎縮症は厚生労働省が定める特定疾患で、有効な根本的治療法が全くない神経難病である。多系統萎縮症のモデルマウスにおいて、抗結核薬のリファンピシンが有効であるという知見が2008年に米国から報告されたのを受け、当施設では世界で初めて同薬を用いた臨床試験を開始し、これまでに20名の患者での投与と長期経過観察診療を行っている。			
医療技術名	球脊髄性筋萎縮症の長期予後に対する抗アンドロゲン療法(ゾラデックス)	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	筋脊髄性筋萎縮症は、X染色体劣性遺伝型の運動ニューロン疾患であり、厚労省が定める特定疾患である。患者は脚や上肢、舌や喉の筋肉が衰え、徐々に動けなくなる。この疾患患者の初期にはある程度抗アンドロゲン療法が有効であることが知られているが、長期的な治療を行っている施設はない。当科では世界でも例を見ない数の本疾患患者について、抗アンドロゲン療法を長期間行い、経過観察を行っており、効果が得られている患者も多い。			
医療技術名	脳表シデローシスに対する硬膜瘻孔閉塞術、および鉄キレート剤デフェリプロン投与	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	脳表シデローシスは種々の原因で中枢神経系の軟膜下層にヘモジデリンが沈着し、中枢神経障害を引き起こす難病である。これまで治療法が全く無かったが、脊髄硬膜の欠損部を同定し瘻孔閉鎖術などの修復術を行うことの有効性が報告され、当院でもすでに2例の患者で瘻孔閉鎖術を施行し、1例は血管増強剤の内服治療を行っている。更に、脳内の酸化反応を沈静化させるため、脳内に沈着した鉄を除去するとされている鉄キレート剤による内服療法を開始している。			
医療技術名	埋込型補助人工心臓	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	心臓移植待機中の重症心不全症例に対する体内埋込型補助人工心臓を留置する。			
医療技術名	局所進行肺癌に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科治療	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	非小細胞肺癌の局所進行病変(cT3-4, cN2)に対して術前化療放射線併用療法後の肺切除術			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術を含む集学的治療	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術・抗癌剤化学療法・放射線治療からなる3者療法			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中温熱抗癌剤灌流療	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中温熱抗癌剤灌流、術後抗癌剤化学療法の集学的治療			
医療技術名	マイクロサージャリー	取扱患者数	101	人
当該医療技術の概要	手術用顕微鏡を用いて、微小血管吻合や神経吻合を行い、遊離皮弁移植や、知覚再建を行う。			

医療技術名	顔面神経麻痺に対する動的再建	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	神経血管柄付き遊離筋弁移植、筋膜移植などを用いて笑いの再建、顔面对称性獲得を行っている。			
医療技術名	一次乳房再建	取扱患者数	16	人
当該医療技術の概要	乳腺外科・放射線科と協力して乳がん切除と乳房再建を同時に行う。遊離腹部皮弁、広背筋皮弁や人工乳房で再建している。遊離腹部皮弁術前には放射線科協力のもと詳細なシミュレーションを行っている。			
医療技術名	頭蓋底再建	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科とともに従来根治治療が困難であった部位に生じた腫瘍の切除・再建を行っている。			
医療技術名	赤外線観察カメラシステムを用いた各種皮弁の血行評価、リンパ管走行評価	取扱患者数	26	人
当該医療技術の概要	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、血管外科の協力のもと、より安全・確実に皮弁挙上、リンパ管走行確認ができるように上記システムを利用して手術を行っている。			
医療技術名	虚血肢に対する集学的治療	取扱患者数	33	人
当該医療技術の概要	血管外科、放射線科、内科、皮膚科と協力して虚血のために通常であれば下肢を温存できない症例に対して血管内治療、バイパス治療、血管再生治療、遊離皮弁の技術を用いて、下肢を温存する治療を行う。			
医療技術名	センチネルリンパ節生検	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	皮膚悪性腫瘍手術で不必要なリンパ節郭清手術を回避するために、センチネルリンパ節生検を行う。保険適応となった悪性黒色腫以外にも学内倫理委員会の承認を得て有棘細胞癌、乳房外ページェット病に対して行っている。			
医療技術名	持続血液透析濾過	取扱患者数	47	人
当該医療技術の概要	急性腎不全の重症例や全身状態の悪い症例に対して行われる血液浄化法で、血液透析濾過を24時間持続的に行う。少量ずつ透析を持続的に行うため、全身状態に与える影響が少なく、血管外物質の除去効率が高い。			
医療技術名	血漿交換	取扱患者数	35	人
当該医療技術の概要	血液を血漿分離器で血球成分と血漿成分に分離した後に、病気の原因物質を含む血漿を廃棄して、それと同じ量の健常な方の血漿(新鮮凍結血漿)、もしくはアルブミン製剤を入れて置き換える治療法。劇症肝炎、肝不全、血栓性血小板減少性紫斑病、ステロイドや免疫抑制剤の治療の効果が少ない活動性の強い膠原病(全身性紅斑性エリトマトーデスなど)などが適応となる。			
医療技術名	血漿吸着	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	血液を取り出しそのまま直接カラムに通し、血液中の病因物質を吸着器に吸着させ、除去し、また血液を身体に返す治療法。当院では家族性高コレステロール血症に対し、LDL吸着を行っている。			
医療技術名	エンドトキシン吸着	取扱患者数	36	人
当該医療技術の概要	エンドトキシン血症に伴う重症病態の改善のため、エンドトキシンを選択的に吸着除去する吸着型血液浄化器(トレミキシン)を用いた血液浄化療法。			

医療技術名	顆粒球、リンパ球吸着	取扱患者数	26	人
当該医療技術の概要	潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患では、活性化した顆粒球やリンパ球を吸着療法により体外へ除去し、腸管での炎症部位に動員される白血球を減少させ、炎症を鎮静化する治療法。			
医療技術名	半側空間失認患者に対するミラー療法	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	脳血管疾患をはじめ脳腫瘍などでも認められることのある、空間認識障害に対して、健側の矢状面に鏡を置き、鏡を見ながら健側上肢を空間無視側へ移動させることで、空間認識能力の回復を図る訓練法			
医療技術名	スポーツ早期競技復帰に向けた軟部組織外傷に対する高気圧酸素治療の	取扱患者数	108	人
当該医療技術の概要	捻挫、肉離れ等の軟部組織外傷の急性期における高気圧酸素治療は、外傷の治癒促進となるエビデンスが複数あり、オリンピック選手やトップアスリートも含め、一日でも早期にスポーツ競技復帰を望む選手からの社会的要請は高い。本学では、土日祝日も含めた高気圧酸素治療の実施や急性期の診療体制を確立しており、高度医療の提供といえる。			
医療技術名	難治性疾患である遅発性放射線障害に対する高気圧酸素治療の実施	取扱患者数	30	人
当該医療技術の概要	遅発性放射線障害である出血性膀胱炎、出血性腸炎、放射線性咽頭炎等は難治性であり、保存的治療に抵抗する。このため、例えば出血がコントロールされない放射線性出血性膀胱炎では、定期的な輸血や膀胱摘出術などの外科的処置を要することも多いが、高気圧酸素治療は80%以上の有効性がある。しかしながら、全国的には本疾患に対する高気圧酸素治療を実施している施設は希少で、本学の治療は高度医療と位置づけられる。			
医療技術名	血管再生(新生)療法	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	老年病内科が主たる診療科として取り組んでいる先進医療。輸血部では末梢血に動員された血管幹細胞の成分採血による採取と、濃縮を実施している。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞採取・移植	取扱患者数	13	人
当該医療技術の概要	血液内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種末梢血幹細胞採取・移植	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	血液内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種骨髄の採取・移植	取扱患者数	12	人
当該医療技術の概要	血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では骨髄バンクドナーを含む採取、移植細胞の評価、血液型不適合移植の場合の処理を担当している。			
医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では移植細胞の評価を担当している。			
医療技術名	胃腸管間質腫瘍(GIST)の分子病理学的診断	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	胃腸管間質腫瘍(GIST)におけるc-kit遺伝子の点突然変異をdirect sequence法により検出し、イマチニブ感受性を予測する。			

医療技術名	gliomaのFISH法による分子病理学的診断	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	1q25プローブ/1p36 プローブを用いてoligodendrogliomaとastrocytomaの鑑別を行い、化学療法・放射線治療感受性の予測を行っている。			
医療技術名	In situ hybridization法によるウイルス感染の分子病理学的診断	取扱患者数	133	人
当該医療技術の概要	EBウイルスのRNA(EBER)を特異的プローブで検出し、悪性リンパ腫を中心として分子病理学診断を行っている。			
医療技術名	Polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion (PMX): エンドトキシン吸着療法	取扱患者数	18	人
当該医療技術の概要	グラム陰性菌感染によるエンドトキシンショックが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、エンドトキシンの吸着剤であるポリミキシンBを不溶性の線維に固定したカラム(トレミキシン)に灌流させ、エンドトキシンを吸着除去した後、血液を体内に戻す血液浄化療法である。			
医療技術名	Percutaneous cardiopulmonary support system (PCPS): 経皮的心肺補助	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	緊急心蘇生や重症心不全に対する循環補助が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を、膜型人工肺を用いて酸素化し動脈血として大腿動脈に送血閉鎖回路による補助循環である。			
医療技術名	Intraaortic balloon pumping (IABP): 大動脈内バルーンパンピング	取扱患者数	14	人
当該医療技術の概要	急性心筋梗塞後の心原性ショックや急性心筋梗塞に伴う心室中隔穿孔や僧帽弁閉鎖不全、開心術後のポンプ機能不全が適応となる。胸部下行大動脈に留置したバルーンを、駆動装置を用いて心拍に同期させて収縮・拡張させる装置である。心臓の拡張期にバルーンを拡張することによって、大動脈圧拡張末期圧を上昇させ冠血流量を増加させる効果と、収縮期直前にバルーンを急速に収縮させ拡張末期圧を低下させ心拍手津を容易にする効果を有する。			
医療技術名	Continuous hemodiafiltration (CHDF): 持続血液濾過透析	取扱患者数	50	人
当該医療技術の概要	急性腎傷害を合併した循環動態が不安定な重症患者が適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、小型の濾過器を用い限外濾過により持続的に体液を除水する。同時に透析液を流すことによって、拡散によっても物質を除去する血液浄化療法である。24時間以上持続して施行する。			
医療技術名	Extra corporeal membrane oxygenation (ECMO): 体外膜型酸素化装置	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	ARDSや重症肺炎(細菌性、ウイルス性)、肺外傷などの、低酸素血症や高二酸化炭素血症の重症呼吸不全が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を膜型人工肺を用いて酸素化し、中心静脈に返す補助循環である。長期体外循環による呼吸補助を行うことにより生体肺を休ませ、肺の回復を待つ治療法である。			
医療技術名	Plasma exchange (PE): 血漿交換	取扱患者数	5	人
当該医療技術の概要	劇症肝炎、多発性骨髄腫、薬物中毒、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎などが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し血漿成分だけを分離し、その血漿成分は破棄する。その代替として新鮮凍結血漿あるいは5%アルブミン製剤で補う血液浄化療法である。血漿中に存在する病因関連物質や病態を悪化させている物質を除去する治療法である。			
医療技術名	院外心肺停止患者の蘇生後脳症に対する脳低温療法	取扱患者数	18	人
当該医療技術の概要	院外心肺停止で搬送される患者さんが蘇生に成功した際、ただちに体温を34度まで下げて24時間維持するもの。低酸素に暴露された脳のダメージを最小限でできることが期待され、心肺蘇生の国際ガイドラインでもそのエビデンスが支持されている。当院ではER発足以来積極的に取り入れ、院外心肺停止患者さんの社会復帰に成果を上げている。			
医療技術名	高感度迅速多項目ウイルス定性測定	取扱患者数	1491	人
当該医療技術の概要	HSV1, HSV2, VZV, EBV, CMV, HHV6, HHV7, HHV8, BKV, JCV, Parvovirus B19, HBVの12種類のウイルスを2時間以内に10 copy/sampleの感度で効率良く測定するウイルス定性検査。院内における各種感染症に加えて、再生医療製剤の品質保証に使用している。			

医療技術名	高感度ウイルス定量システム	取扱患者数	868	人
当該医療技術の概要	HSV1, HSV2, VZV, EBV, CMV, HHV6, HHV7, HHV8, BKV, JCV, Parvovirus B19, HBV, AdenovirusなどのウイルスについてのPCRを用いた定量検査。院内における各種感染症に加えて、再生医療製剤の品質保証に使用している。			
医療技術名	Short tandem repeat法を用いた個人識別システム	取扱患者数	約20	人
当該医療技術の概要	Short tandem repeat法を用い高感度に移植後のキメリズム状態を測定する。			
医療技術名	遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	75	人
当該医療技術の概要	院内臨床各科との連携によって各種遺伝性疾患の遺伝リスクの説明、家族に対する遺伝リスクの説明を行っている。出生前診断の一環としての羊水染色体検査や乳癌・大腸癌に対する遺伝子検査の実施およびその説明を行っている。			
医療技術名	神経難病に対する発症前遺伝子診断	取扱患者数	1	人
当該医療技術の概要	ハンチントン病・脊髄小脳変性症などの遺伝性神経難病は現在のところ確立した治療法がなく、発症者の家族の遺伝的リスクを有するクライアントに対する遺伝子診断は慎重に行う必要がある。しかし、遺伝的リスクを持つ患者のニーズは高く、当科では神経内科・精神神経科との連携のもと、医学部倫理審査委員会の承認を得ながら発症前の遺伝子検査を行っている。			
医療技術名	C型肝炎患者に対するIL28受容体多型遺伝子検査	取扱患者数	12	人
当該医療技術の概要	C型慢性肝炎インターフェロン療法の成功(ウイルス排除)率と強く関連するIL28Bの遺伝子多型検査を開始。インターフェロン療法の治療法選択に大きく貢献している。			
医療技術名	クロザピンによる治療抵抗性統合失調症患者の治療	取扱患者数	3	人
当該医療技術の概要	従来の抗精神病薬に抵抗する難治性症状のため不安定な状態が続く統合失調症患者に対し、クロザピンによる治療を行う。クロザピンは、治療効果が高い反面、無顆粒球症、心筋障害、耐糖能異常等の副作用を引き起こし重症化し易い問題があるため、所定の講習を得た登録医により、血液内科・循環器内科・代謝内分泌内科・薬剤部の協力体制が確立している限定された施設でのみ実施が許可されている。当院は、平成22年度までに、この承認を得て実施中である。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法による難治性精神疾患の治療	取扱患者数	239	人
当該医療技術の概要	薬物療法に抵抗する難治性のうつ病、双極性障害、統合失調症、口腔内セネストパチー、器質性精神疾患等を対象として、手術室において麻酔科による全身麻酔の管理のもとで、前頭部に電極を装着し、矩形波出力型のパルス浪通電装置を用い、脳への通電を行う。けいれんを生じさせず、副作用のリスクを低減した方法であり、修正型と呼ばれ、全身麻酔管理のできる施設と医師を要する高度な医療である。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸切除術	取扱患者数	65	人
当該医療技術の概要	従来の開腹手術と異なり、腹部の創を大きく切らずに腹部に1cm前後の穴を数カ所開けてその穴を通して腹部手術を行う。創が小さいため、痛みが少なく、整容性に優れた手術である。			
医療技術名	化学療法後大腸癌肝転移切除	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	切除不能な大腸癌肝転移に対し、化学療法によって転移巣を縮小させて切除を行う。また、切除可能な大腸癌肝転移症例に対しても、化学療法後に肝切除を行うことにより、再発率を低下させる。			
医療技術名	難治性痒疹患者のNB-UVB療法	取扱患者数	20	人
当該医療技術の概要	難治性痒疹は通常の外用療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例に対して、narrow band UVBを照射するという治療を行っており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重症アトピー性皮膚炎のNB-YVB療法	取扱患者数	11	人
当該医療技術の概要	重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、narrow band UVBを照射するという治療を併用しており、良好な結果を得ている。			

医療技術名	多汗症のボトックス注射	取扱患者数	8	人
当該医療技術の概要	局所多汗で悩む患者さんは数多く、しかも確実な効果を見込める治療法に乏しい。そのような患者さんに対してボトックスの局所注射を行うことによって良好な効果を得ている。			
医療技術名	重症乾癬に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	乾癬は慢性に経過する炎症性皮膚疾患の代表的なものである。重症な本疾患に対して、生物学的製剤の投与が保険適応となった。当科においても重症例に対して使用しており、良好な効果を得ている。			
医療技術名	原発性無汗症に対するステロイドパルス療法	取扱患者数	10	人
当該医療技術の概要	汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう難病であるが、それらの症例に対してステロイドパルス療法をしようすることによって良好な結果を得ている。			
医療技術名	難治性皮膚疾患に対する大量ガンマグロブリン投与療法	取扱患者数	7	人
当該医療技術の概要	水疱症や重症薬疹の症例において、免疫抑制療法のみではコントロール不良の症例に対して大量ガンマグロブリン投与を行い、良好な結果を得ている。			
医療技術名	難治性のアナフィラクトイド紫斑やアトピー性皮膚炎に対する根尖病巣治療	取扱患者数	2	人
当該医療技術の概要	通常の治療でコントロール不良の症例において、菌性の根尖病巣の有無を検索し、存在する症例においてはこれを積極的に治療を行うことによって良好な結果を得ている。			
医療技術名	難治性潰瘍に対する骨髄露出療法	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	特に末梢の潰瘍で、通常の治療でコントロール不良の症例において、骨髄を露出させることによって、幹細胞の遊走を促進し、治療する試みであり、良好な結果である。			
医療技術名	眼内炎に対する眼内液を用いた網羅的PCR診断	取扱患者数	100	人
当該医療技術の概要	眼内炎は細菌、真菌の眼内感染により生じ、数日のうちに失明に至る劇症の疾患であるため、迅速な診断を要する。当科では眼内炎が疑われる患者にブロードレンジPCR法を用いて、微量な眼内液検体から細菌や真菌感染の迅速診断を行っている。			
医療技術名	ヘルペス性虹彩炎に対する眼内液を用いた網羅的PCR診断と新規治療法	取扱患者数	130	人
当該医療技術の概要	マルチプレックスPCR法により、微量な眼内液に対して8種類のヘルペスウイルスの網羅的迅速診断を行っている。また、治療法が未だ確立されていない難治性のCMV虹彩炎に対して、バルガンシクロビル内服とガンシクロビル点眼治療の複合療法を行っている。			
医療技術名	眼内リンパ腫に対する硝子体液を用いた分子免疫学的診断	取扱患者数	22	人
当該医療技術の概要	眼内リンパ腫は、ステロイド抵抗性の眼内炎症性疾患との鑑別が難しく、その診断は困難な事が多い。当科では硝子体手術により採取した微量な眼内液検体に対して、免疫グロブリン重鎖遺伝子の単クローン性増幅の検出、リンパ腫特有のサイトカインパターンの検出などの分子免疫学的手法を用いた診断を行っている。			
医療技術名	急性網膜壊死の診断と治療	取扱患者数	4	人
当該医療技術の概要	急性網膜壊死はヘルペスウイルスの網膜感染症であり、数日から数週間で網膜壊死による失明に至る。当科では迅速な原因診断のために、眼内液を用いた網羅的PCR法による病原体検索を行っている。また、炎症期の早期硝子体手術、アシクロビル大量静注療法による治療を行っている。			
医療技術名	非感染性ぶどう膜炎に対する新しい免疫療法	取扱患者数	40	人
当該医療技術の概要	難治性の非感染性ぶどう膜炎に対して、従来のステロイド薬や免疫抑制剤に加えて、生物製剤であるインフリキシマブの全身投与やアダリムマブの皮下投与、免疫抑制剤であるシロリムスの眼内局所注射などを用い、患者毎に適切な治療法を選択し、行っている。			

医療技術名	眼内リンパ腫の治療	取扱患者数	15	人
当該医療技術の概要	未だ治療法が確立されていない眼内リンパ腫に対して、メトレキサート硝子体注射を用いた眼内化学療法と、メトレキサート大量静脈内投与による眼外臓器の発症予防治療を行っている。			
医療技術名	強度近視眼の黄斑分離症に対する、黄斑部温存内境界膜剥離法を用いた硝子体手術	取扱患者数	105	人
当該医療技術の概要	強度近視に伴う黄斑分離症手術では、約2割の症例で周術期に黄斑円孔の合併症を生じる。それを回避する目的で、当科では硝子体手術で行う内境界膜剥離の際に、黄斑部内境界膜を温存する新しい手法を開発し、黄斑円孔の発生を予防している。			
医療技術名	黄斑疾患に対する抗VEGF抗体の硝子体内注入療法	取扱患者数	145	人
当該医療技術の概要	網膜や脈絡膜に生じる新生血管や、糖尿病や眼内炎症性疾患で生じる黄斑浮腫は、高度な視力低下の原因となるが、その治療は困難である。当科では、抗VEGF抗体の硝子体内注入療法を行い、従来の治療法では得られなかった高い効果を挙げている。			
医療技術名	非侵襲的な眼球形状解析法	取扱患者数	208	人
当該医療技術の概要	強度近視眼や緑内障では特異な眼球形状をしばしば呈するが、その診断は困難である。当科では高侵達光干渉断層計や3D-MRIを用いた非侵襲的な眼球形状解析を行い、正確な病態診断に役立っている。			
医療技術名	栄養・生活指導を用いた更年期症状の緩和に関する検討	取扱患者数	約	人
当該医療技術の概要	更年期障害の原因としてはホルモン低下に伴う内分泌要因のみならず、女性が更年期の時期に直面する社会・心理的要因が重要な因子として知られている。当科更年期外来では専門の栄養士が常駐し、栄養状態が偏りがちな患者ごとの個別対応による生活・栄養指導が行われており、この指導とカウンセリングのみで多くの更年期症状が緩和することを以前から報告しており、同時にイソフラボンなどの植物エストロゲンでも症状緩和が起こることを報告した。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	169人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	102人	・広範脊柱管狭窄症	17人
・重症筋無力症	97人	・原発性胆汁性肝硬変	28人
・全身性エリテマトーデス	359人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	59人
・再生不良性貧血	21人	・混合性結合組織病	51人
・サルコイドーシス	202人	・原発性免疫不全症候群	78人
・筋萎縮性側索硬化症	51人	・特発性間質性肺炎	89人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	293人	・網膜色素変性症	33人
・特発性血小板減少性紫斑病	62人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	50人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	151人	・神経線維腫症	16人
・大動脈炎症候群	135人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	48人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	49人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	183人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	172人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	32人	・脊髄性筋萎縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	84人	・球脊髄性筋萎縮症	18人
・アミロイドーシス	13人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15人
・後縦靭帯骨化症	89人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	196人	・ミトコンドリア病	14人
・ウェゲナー肉芽腫症	26人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	29人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	65人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	53人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
敗血症に伴う多臓器不全に対する内皮細胞保護療法	磯谷 栄二	救命救急センター	2,470	補 日本学術振興会
多臓器不全の発症機序におけるカルシウム非依存性ホスホリパーゼA2の役割	相星 淳一	救命救急センター	3,380	補 日本学術振興会
加齢黄斑変性発症の四次元時空的解明と分子標的治療の確立	大野 京子	システム神経医学講座眼科学分野	4,940	補 日本学術振興会
制御性T細胞によるぶどう膜炎に対する新しいパーソナルメイド免疫療法の開発	望月 學	システム神経医学講座眼科学分野	1,820	補 日本学術振興会
アミロイドbを標的とした加齢黄斑変性・緑内障の早期診断・治療に向けた新規戦略法	大野 京子	システム神経医学講座眼科学分野	1,820	補 日本学術振興会
加齢黄斑変性の発症の分子メカニズムの解明	望月 學	システム神経医学講座眼科学分野	1,200	補 日本学術振興会
難聴症例のミトコンドリア遺伝子変異の網羅的解析法確立と内耳細胞内の変異定量解析	喜多村 健	システム神経医学講座耳鼻咽喉科学分野	3,380	補 日本学術振興会
蝸牛外有毛細胞動毛形成の聴覚における影響の解析	戸叶 尚史	システム神経医学講座耳鼻咽喉科学分野	1,950	補 日本学術振興会
高齢者蝸牛細胞の遺伝子発現解析による老人性難聴の病態解明	喜多村 健	システム神経医学講座耳鼻咽喉科学分野	1,430	補 日本学術振興会
白血病細胞の恒常的活性化シグナルとチェックポイント機構に対する統合的分子標的療法	三浦 修	遺伝子・分子医学講座血液内科学分野	1,170	補 日本学術振興会
受容体型チロシンキナーゼROR1による癌化機構解明とその治療応用	福田 哲也	遺伝子・分子医学講座血液内科学分野	1,300	補 日本学術振興会
EBV陽性TおよびNK細胞リンパ増殖症発症機構の解明と治療法の開発	新井 文子	遺伝子・分子医学講座血液内科学分野	2,210	補 日本学術振興会
Administrative Dataを用いたリスク調整と医療の評価手法の開発	伏見 清秀	医療情報部	1,040	補 日本学術振興会
動脈疾患における歯周病の関与と血小板凝集の影響について	井上 芳徳	加齢制御医学講座食道・一般科学分野	1,560	補 日本学術振興会
慢性過敏性肺炎における好塩基球の新たな役割	稲瀬 直彦	加齢制御医学講座統合呼吸器病学分野	1,300	補 日本学術振興会
幹細胞機能を基盤とした肺癌幹細胞の病態解析	アディクリスナ ラマ	外科系診療部門肝胆脾外科	2,210	補 日本学術振興会
二つの幹細胞特性に基づく肝癌病態解析	村松 俊輔	外科系診療部門肝胆脾外科	2,210	補 日本学術振興会
膀胱癌の転移/治療耐性におけるp63蛋白の役割	古賀 文隆	外科系診療部門泌尿器科	3,640	補 日本学術振興会
尿路上皮癌幹細胞の同定および癌幹細胞をターゲットとした治療モデルの構築	田所 学	外科系診療部門泌尿器科	2,210	補 日本学術振興会
ビスホスホネートによる泌尿器癌の治療感受性の増大とその分子生物学的機序の解析	木島 敏樹	外科系診療部門泌尿器科	3,120	補 日本学術振興会
膀胱癌の浸潤能および化学放射線治療抵抗性獲得におけるp63蛋白の役割の解析	古賀 文隆	外科系診療部門泌尿器科	152	補 日本学術振興会
インフリキシマブ治療によるベーチェット病網膜ぶどう膜炎患者のT細胞抑制機序の解析	川口 龍史	感覚・皮膚・運動機能診療部門眼科	1,820	補 日本学術振興会
マウス蝸牛microRNA発現解析による老人性難聴発症機構の解明	野口 佳裕	感覚・皮膚・運動機能診療部門耳鼻咽喉科	1,430	補 日本学術振興会
PMP22の難聴発症における分子機構の解明	高橋 正時	感覚・皮膚・運動機能診療部門耳鼻咽喉科	1,560	補 日本学術振興会
関節軟骨細胞に発現する破骨細胞分化制御因子の機能に関する研究	古賀 大介	感覚・皮膚・運動機能診療部門整形外科	1,560	補 日本学術振興会
変形性関節症の発症機構解明のための新規動物モデルの確立と関節組織の初期病変の解析	神野 哲也	感覚・皮膚・運動機能診療部門整形外科	2,080	補 日本学術振興会
骨モデリングにおけるマイクロRNAの生理的意義の解明	猪瀬 弘之	感覚・皮膚・運動機能診療部門整形外科	1,690	補 日本学術振興会
腎臓における新規の血圧調節機構WNK-NCCシグナル伝達系の解明	頼 建光	血液浄化療法部	4,420	補 日本学術振興会
肥満患者におけるWNKキナーゼを介した塩分感受性高血圧メカニズムの解明	藤原 映誠	血液浄化療法部	1,820	補 日本学術振興会
ポリカーボネートポリウレタンを用いた脳動脈瘤塞栓物質の開発	吉野 養一	血管内治療学分野	1,300	補 日本学術振興会
ブタを用いた脳血管内治療トレーニングプログラムの開発	根本 繁	血管内治療学分野	910	補 日本学術振興会
脳動脈新生の賦活による急性期脳梗塞に対する新規治療法の開発	三木 一徳	血管内治療学分野	1,690	補 日本学術振興会
ブタを用いた脳血管内治療トレーニングプログラムの開発	根本 繁	血管内治療学分野	650	補 日本学術振興会
肺がんにおけるカルボキシペプチダーゼMの発現と予後の研究	藤原 直之	呼吸器外科学分野	650	補 日本学術振興会
ライブ環境における小腸全長機能解析と病態の解明	荒木 昭博	光学医療診療部	1,690	補 日本学術振興会
炎症性腸疾患治療ターゲットとしての腸炎惹起性メモリーT細胞IL-7受容体の解析	岡田 英理子	光学医療診療部	1,690	補 日本学術振興会
Notchリガンド・受容体システムによる腸管粘膜維持再生機構の解析	森尾 純子(秋山純子)	光学医療診療部	2,730	補 日本学術振興会
滑膜幹細胞を用いた新しい低侵襲骨関節疾患治療の臨床応用の発展のための大動物研究	宗田 大	支持分子制御学講座運動器外科学分野	780	補 日本学術振興会
変形性膝関節症における疼痛の分子メカニズムの解析	朱 寧進	支持分子制御学講座運動器外科学分野	1,560	補 日本学術振興会
機轉的遺伝子Mohawkを起点とした腫瘍発生・再生メカニズムの解明	伊藤 養晃	支持分子制御学講座運動器外科学分野	800	補 日本学術振興会
Buerger病発症メカニズムにおけるTLR・CD40L遺伝的多型に関する研究	工藤 敏文	集中治療部	780	補 日本学術振興会
敗血症性ショックにおけるアディポネクチンの役割と治療法の検討	原口 剛	集中治療部	650	補 日本学術振興会
炎症性腸疾患における腸上皮自然炎症調節機構の破綻	渡辺 守	消化代謝病学講座消化器病態学分野	4,550	補 日本学術振興会
独自の培養技術を用いた大腸上皮細胞機能解析と臨床応用技術開発	渡辺 守	消化代謝病学講座消化器病態学分野	72,670	補 日本学術振興会
免疫抑制性CD4+CD25+T細胞腸管局所移入療法の確立	戸塚 輝治	消化代謝病学講座消化器病態学分野	1,040	補 日本学術振興会
大腸上皮におけるWnt/Notchシグナルクロストーク機構の解明	鈴木 伸治	消化代謝病学講座消化器病態学分野	910	補 日本学術振興会
HCV蛋白とインターフェロン系との相互作用のFRET/BRET解析	田坂 めぐみ	消化代謝病学講座消化器病態学分野	1,170	補 日本学術振興会
腸上皮バイオカプセルを用いた新規薬剤デリバリーシステムの開発	渡辺 守	消化代謝病学講座消化器病態学分野	2,340	補 日本学術振興会
脊髄損傷慢性期での細胞移植を併用した再髄鞘化と運動機能再建	榎本 光裕	整形外科先端治療開発学講座整形外科先端治療開発学講座	1,430	補 日本学術振興会
関節軟骨代謝における老化制御因子SIRT1の機能解析	麻生 義則	整形外科先端治療開発学講座整形外科先端治療開発学講座	1,560	補 日本学術振興会

小計50件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
マイクロRNAによる骨芽細胞・骨細胞分化調節機構の解明	早乙女 進一	整形外科先端治療開発学講座整形外科先端治療開発学講座	1,300	補 日本学術振興会
単一遺伝子異常による免疫学的寛容破綻の分子機構に関する研究	森尾 友宏	生体応答学講座発生発達病態学分野	9,750	補 日本学術振興会
DNA損傷応答機構を中心とした発がん制御機構の解析と、その応用による治療法の開発	水谷 修紀	生体応答学講座発生発達病態学分野	9,750	補 日本学術振興会
毛細血管拡張性小脳失調症責任遺伝子ATMによる細胞分化制御機構の解析	朴 今花	生体応答学講座発生発達病態学分野	1,040	補 日本学術振興会
毛細血管拡張性運動失調症における耐糖能異常発症機構の解明	高木 正稔	生体応答学講座発生発達病態学分野	2,340	補 日本学術振興会
顆粒球系細胞の活性酸素産生を主に制御する分子の研究	森尾 友宏	生体応答学講座発生発達病態学分野	1,950	補 日本学術振興会
マウス胎児精巣におけるCyp26b1遺伝子の制御機構の解明	鹿島田 健一	生体応答学講座発生発達病態学分野	1,690	補 日本学術振興会
好塩基球を標的とした慢性痒疹・痒疹反応の機序の解析と新規治療の開発	横間 博雄	生体応答学講座皮膚科学分野	1,690	補 日本学術振興会
好塩基球・好塩基球を標的とした慢性痒疹性アレルギー疾患治療と痒みの制御の研究	佐藤 貴浩	生体応答学講座皮膚科学分野	1,690	補 日本学術振興会
血管肉腫に対するウイルスベクターを用いた新治療の試み	西澤 綾	生体応答学講座皮膚科学分野	1,430	補 日本学術振興会
痒疹の病態解明と新規治療法の開発	宇賀神 つかさ	生体応答学講座皮膚科学分野	1,469	補 日本学術振興会
新しいメカニズムによる次世代抗リウマチ療法の開発	上阪 等	生体応答学講座膠原病・リウマチ内科学分野	10,140	補 日本学術振興会
炎症性疾患克服に向けた線維芽細胞病理学開拓への挑戦	上阪 等	生体応答学講座膠原病・リウマチ内科学分野	3,900	補 日本学術振興会
膠原病の生命予後規定因子である間質性肺炎発症の分子機構の解明と新規治療法の開発	海老澤 昌史	生体応答学講座膠原病・リウマチ内科学分野	1,690	補 日本学術振興会
新しいメカニズムによる次世代抗リウマチ療法の開発	上阪 等	生体応答学講座膠原病・リウマチ内科学分野	3,900	補 日本学術振興会
腎臓膜輸送体を制御する新規細胞内刺激伝達系の解明	内田 信一	生体調節制御学講座腎臓内科学分野	9,360	補 日本学術振興会
新たな腎臓膜輸送体制御法の開発	佐々木 成	生体調節制御学講座腎臓内科学分野	11,440	補 日本学術振興会
蛋白相互作用阻害によるWNKキナーゼ阻害薬の効率的スクリーニング	内田 信一	生体調節制御学講座腎臓内科学分野	1,950	補 日本学術振興会
自己組織を利用した欠損組織修復と血流回復を目指した新規新生児外科治療戦略	久保田 俊郎	生体調節制御学講座生殖機能協同学分野	1,040	補 日本学術振興会
植物ホルモンによるヒト血管内皮機能制御に関する基礎的検討	尾林 聡	生体調節制御学講座生殖機能協同学分野	3,510	補 日本学術振興会
ヒト固形癌の休眠型癌幹細胞とそのニッチ特性の解明	田中 真二	先端外科治療学講座肝胆膵・総合外科学分野	36,920	補 日本学術振興会
難治性消化器癌における転移・再発の分子診断と分子標的治療の開発	有井 滋樹	先端外科治療学講座肝胆膵・総合外科学分野	9,360	補 日本学術振興会
消化器癌の難治性メカニズムに基づいた先端的治療開発	田中 真二	先端外科治療学講座肝胆膵・総合外科学分野	13,650	補 日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞を利用した巨大骨組織再生のための基礎技術の確立	四宮 謙一	先端外科治療学講座整形外科学分野	6,240	補 日本学術振興会
末梢神経刺激-脊髄誘発磁界測定を用いた完全に非侵襲的脊髄機能診断法の開発	川端 茂徳	先端外科治療学講座整形外科学分野	1,430	補 日本学術振興会
神経栄養因子と上皮成長因子 (EGF) 受容体制御による末梢神経再生	若林 良明	先端外科治療学講座整形外科学分野	1,820	補 日本学術振興会
注入硬化型生体吸収性人工骨補填材の開発と評価	阿江 啓介	先端外科治療学講座整形外科学分野	1,950	補 日本学術振興会
骨と血圧調節機構のクロストークの解明	大川 淳	先端外科治療学講座整形外科学分野	2,340	補 日本学術振興会
注入型多孔質ポリウレタンscaffoldを使用した骨再生	吉井 俊貴	先端外科治療学講座整形外科学分野	1,469	補 日本学術振興会
末梢神経刺激-脊髄誘発磁界測定を用いた完全に非侵襲的脊髄機能診断法の開発	川端 茂徳	先端外科治療学講座整形外科学分野	555	補 日本学術振興会
急性腎障害における心房性ナトリウム利尿ペプチドの腎保護作用メカニズムの研究	三高 千恵子	全人診断治療学講座救命救急医学分野	650	補 日本学術振興会
発達期の脳に対する麻酔薬の影響	山内 麻衣子	全人診断治療学講座救命救急医学分野	1,560	補 日本学術振興会
症例に応じた分子標的治療を目指した急性白血病幹細胞の定量と特性の検査法の開発	東田 修二	全人診断治療学講座臨床検査医学分野	2,080	補 日本学術振興会
白血病幹細胞に対する骨髄微小環境を模した抗白血病薬感受性検査法の開発	伊藤 真以	全人診断治療学講座臨床検査医学分野	1,040	補 日本学術振興会
ブランクアッセイ法を応用した細胞障害性HCV株のクローン化と機能解析	大岡 真也	総合診療部	1,300	補 日本学術振興会
高分解能MR内視鏡の開発とその臨床的有用性に関する研究	山田 一郎	頭頸部再建学講座腫瘍放射線医学分野	1,950	補 日本学術振興会
頭蓋底外科における低侵襲かつ安全な頭蓋顔面アプローチ法の確立に関する研究	岸本 誠司	頭頸部再建学講座頭頸部外科学分野	7,150	補 日本学術振興会
Ph陽性白血病の低分子量G蛋白質を介したシグナル伝達機構の治療標的としての検討	黒須 哲也	内科系診療部門血液内科	1,170	補 日本学術振興会
心房細動リスク因子 (メタボリック症候群・心房拡大) における心房炎症機構の解明	笹野 哲郎	内科系診療部門循環器内科	910	補 日本学術振興会
ヒト大腸上皮培養による大腸癌幹細胞の分化破綻機構解析	土屋 輝一郎	内科系診療部門消化器内科	7,410	補 日本学術振興会
NKT細胞を標的とした潰瘍性大腸炎新規治療法の開発	長堀 正和	内科系診療部門消化器内科	910	補 日本学術振興会
肝幹細胞移植による肝再構築機構の解析	東 正新 (陳正新)	内科系診療部門消化器内科	910	補 日本学術振興会
SIP受容体を標的としたIBD新規治療法の開発	藤井 俊光	内科系診療部門消化器内科	2,210	補 日本学術振興会
HCV変異株培養系を用いたサイトカインシグナル抑制機構の解析	中川 美奈	内科系診療部門消化器内科	1,820	補 日本学術振興会
次世代シーケンサを用いたHCV感染に関連する宿主遺伝子・シグナル経路の包括的解析	櫻井 幸	内科系診療部門消化器内科	2,730	補 日本学術振興会
封入体筋炎におけるオートファジーの意義	高村 聡人	内科系診療部門膠原病・リウマチ内科	1,469	補 日本学術振興会
優性遺伝型脊髄小脳変性症のハイスループット遺伝子変異探索	石川 欽也	脳・神経・精神診療部門神経内科	5,070	補 日本学術振興会
RNA異常に着目した新しい脊髄小脳変性症SCA31の分子病態解明	石川 欽也	脳・神経・精神診療部門神経内科	1,300	補 日本学術振興会
脳動脈新生の制御による脳梗塞治療法開発の基礎的研究	石橋 哲	脳・神経・精神診療部門神経内科	2,730	補 日本学術振興会
中性アミノ酸のキラル特性に着目した統合失調症の病態解明	山本 直樹	脳・神経・精神診療部門精神科	1,950	補 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
悪性脳腫瘍のDNA合成能の分子イメージング-新規PET薬剤の世界初の臨床試験-	成相 直	脳・神経・精神診療部門脳神経外科	7,540	補 日本学術振興会
MRI陰性PET陽性海馬を有する側頭葉てんかんの疾患概念確立と治療の研究	前原 健寿	脳・神経・精神診療部門脳神経外科	1,170	補 日本学術振興会
急性肺傷害における肺組織幹細胞系細胞を用いた細胞治療開発への基礎研究	内田 篤治郎	脳・神経・精神診療部門麻酔・蘇生・ペインクリニック	10,010	補 日本学術振興会
極性形成分子Par/Lgl/Scribの肺癌における異常と浸潤・転移との関係	明石 巧	病理部	1,430	補 日本学術振興会
ニューキノロン系抗菌薬による血糖値異常の速度論解析	安原 真人	薬剤部	780	補 日本学術振興会
腎細胞癌治療における分子標的薬適正使用のための個別化投与設計法の開発	永田 将司	薬剤部	600	補 文部科学省
骨代謝における活性酸素シグナルの解明	森田 定雄	理学療法部	2,340	補 日本学術振興会
遺伝子多様性データを解明する統合的分析について	富田 誠	臨床試験管理センター	910	補 日本学術振興会
動物実験用MRIを用いた、妊産婦脳血管障害の病態解析および治療法の検討	宮坂 尚幸	小児・周産期地域医療学講座(産婦人科)	910	補 日本学術振興会
B細胞、NK細胞、樹状細胞欠損を伴う原発性免疫不全症の病態解析と原因遺伝子の同定	今井 耕輔	小児・周産期地域医療学講座(小児科)	1,950	補 日本学術振興会
生体センサー腸上皮によるバイオスクリーニング法の開発	岡本 隆一	消化管先端治療学講座消化管先端治療学講座	5,460	補 日本学術振興会
リアルタイムイメージングを用いた初代大腸上皮培養細胞の増殖・分化機構解析	中村 哲也	消化管先端治療学講座消化管先端治療学講座	910	補 日本学術振興会
炎症性腸疾患における発癌調節機構の解明と臨床応用への基盤樹立	長沼 誠	消化管先端治療学講座消化管先端治療学講座	1,690	補 日本学術振興会
Notchシグナル活性化幹細胞による腸管上皮再生機構の解析	岡本 隆一	消化管先端治療学講座消化管先端治療学講座	2,730	補 日本学術振興会
自宅あるいは職場環境が原因で起こる間質性肺炎の原因真菌の同定	宮崎 泰成	睡眠制御学講座睡眠制御学講座	3,380	補 日本学術振興会
視床皮質神経回路の発達を制御する遺伝子の統合失調症関連解析および死後脳研究	上里 彰仁	睡眠制御学講座睡眠制御学講座	2,210	補 日本学術振興会
軟骨損傷に対する滑膜幹細胞浮遊液静置療法において細胞接着効率を向上させるための検討	関矢 一郎	軟骨再生学講座軟骨再生学分野	910	補 日本学術振興会
宿主・ウイルスを標的とした抗HCV薬剤・化合物の大規模スクリーニング	坂本 直哉	分子肝炎制御学講座分子肝炎制御学講座	5,200	補 日本学術振興会
マウス指向性C型肝炎ウイルスを用いた感染動物モデルの樹立	坂本 直哉	分子肝炎制御学講座分子肝炎制御学講座	1,690	補 日本学術振興会
肝幹・前駆細胞の分化増殖機構の解析と疾患治療モデルの構築	柿沼 晴	分子肝炎制御学講座分子肝炎制御学講座	1,820	補 日本学術振興会
水チャネル輸送機序を標的とした腎性尿崩症の治療法開発	野田 裕美	慢性腎臓病病態治療学講座	910	補 日本学術振興会
生物学的製剤及び分子標的薬投与下の重篤感染症、日和見感染症に関する薬剤疫学的研究	田中 みち	薬害監視学講座薬害監視学講座	1,560	補 日本学術振興会
カンナビノイドによる炎症抑制作用の解明と関節リウマチの新規治療開発	南木 敏宏	薬害監視学講座薬害監視学講座	2,210	補 日本学術振興会
CCR9を介する関節リウマチ病態形成の分子機構の解明とその阻害による新規治療開発	渡部 香織	薬害監視学講座薬害監視学講座	2,210	補 日本学術振興会
診断群分類の精緻化とそれを用いた医療評価の方法論開発に関する研究	伏見 清秀	医療情報システム学	41,904	補 厚生労働省
患者調査、医療施設等から得られる地域の患者動態や医療機能に関する情報を地域保険医療計画の策定と評価へ活用する手法に関する研究	伏見 清秀	医療情報システム学	2,000	補 厚生労働省
難治性眼炎症性疾患に対する網羅的迅速診断システムの開発	望月 學	眼科学	5,929	補 厚生労働省
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	望月 學	眼科学	4,500	補 厚生労働省
前庭水管拡大症の臨床所見と遺伝子変異解析に基づく新診断基準作成	喜多村 健	耳鼻咽喉科学	8,686	補 厚生労働省
骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発	四宮 謙一	整形外科	18,566	補 厚生労働省
肝臓に対する新規DDSを活用した経口遺伝子治療法の開発	横田 隆徳	脳神経病態学	30,000	補 厚生労働省
成人型分類不能型免疫不全症の診断基準・診断方法の確立及び治療方法の開発に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	10,000	補 厚生労働省
毛細血管拡張性小脳失調症の実態調査、早期診断法確立と、病態評価に関する研究	水谷 修紀	発生発達病態学	10,000	補 厚生労働省
医療依存度の高い小児及び若年成人の重度心身障がい者への在宅医療における訪問看護師、理学療法士、訪問介護員の標準的支援技術の確立とその育成プログラムの作成のための研究	前田 浩利	発生発達病態学	8,591	補 厚生労働省
難治性重症原発性局所多汗症の病態解析及び治療指針の確立	横関 博雄	皮膚科学	10,000	補 厚生労働省
難治性慢性痒疹・皮膚そう痒症の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	横関 博雄	皮膚科学	10,000	補 厚生労働省
特異性後天性全身性無汗症の病態解析及び治療指針の確立	佐藤 貴浩	皮膚科学	5,000	補 厚生労働省
テロ対策等の自然災害以外の健康危機管理時の医療体制に関する研究	大友 康裕	救急災害医学	3,231	補 厚生労働省
テロ対策等の自然災害以外の健康危機管理時の医療体制に関する研究	大友 康裕	救急災害医学	1,045	補 厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	渡辺 守	消化器病態学	50,000	補 厚生労働省
難治性腸管吸収機能障害Microscopic colitisに関する調査研究	渡辺 守	消化器病態学	10,000	補 厚生労働省
自己免疫性リンパ球増殖症候群(ALPS)およびその類縁疾患の実態調査および病態病因解析	高木 正稔	発生発達病態学	5,000	補 厚生労働省
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的調査	宮坂 信之	膠原病・リウマチ内科学	30,000	補 厚生労働省
「多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎に対するタクロリムスの臨床試験」の調整・管理に関する研究	宮坂信之	膠原病・リウマチ内科学	16,814	補 治験促進センター
治験の実施に関する研究【タクロリムス水和物】	宮坂信之	膠原病・リウマチ内科学	50	補 治験促進センター
幹細胞による次世代の低侵襲軟骨再生治療の開発と臨床応用	関矢 一郎	軟骨再生学講座	40,000	補 厚生労働省
手術手技の最適化による標準治療確立のための多施設共同研究(頭蓋底手術後の再建法の標準化)	岡崎 睦	形成外科学	1,000	補 国立がん研究センター
「メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現」(心房細動関連遺伝子の臨床像との関連解析・機能解析)	磯部 光章	循環制御内科学	1,400	補 文部科学省
局所進行食道がんに対する標準的治療法の確立に関する研究(分担)	河野 辰幸	食道・一般外科学	0	補 国立がん研究センター
「はぐりく健康創造クラスター」の一部	川端 茂徳	整形外科	3,400	補 北陸産業活性化センター

小計50件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
非侵襲脊髄機能イメージング装置の汎用性向上に関する研究	川端 茂徳	整形外科	715	補 科学技術振興機構
社会的行動の基盤となる脳機能の計測・支援のための先端的研究開発	西川 徹	精神行動医科学	35,000	補 文部科学省
シナプスグリア-D-セリン系の分子機構解明と統合失調症における病態解析および修復法創出	西川 徹	精神行動医科学	27,612	補 科学技術振興機構
生涯に亘って心身の健康を支える脳の分子基盤、環境要因、その失調の解明	水澤 英洋	脳神経病態学	58,149	補 文部科学省
誘電スペクトロサイトメーターの開発	水谷 修紀	発生発達病態学	16,900	補 ソニー株式会社(親契約JST)
滑膜幹細胞による膝半月板再生	森尾 友宏	発生発達病態学	8,190	補 文部科学省
がん医療に資する心のケアに携る医療従事者の育成に関する研究(患者・家族に対する一次相談における効果的な精神心理的支援を提供するための連携体制の構築に関する研究)	松島 英介	心療・緩和医療学分野	700	補 岡山大学 (親契約 がんセンター)
DNA合成の分子イメージング:新しいPET薬剤による脳腫瘍の臨床研究	成相 直	脳神経外科	500	補 国立国際医療研究センター
ブルキンエ細胞変性の分子病態に基づく診断・治療の開発	水澤 英洋	脳神経病態学	34,515	補 科学技術振興機構
小児白血病の原因究明に向けた基盤的研究	水谷 修紀	発生発達病態学分野	11,565	補 国立がん研究センター
関節リウマチほか膠原病における線維芽細胞活性化機序に関する研究	上阪 等	膠原病・リウマチ内科学	10,400	補 科学技術振興機構
肝がんの多施設検体コホートに基づく難治性規程分子の同定と分子標的治療の開発	有井 滋樹	分子細胞遺伝	9,000	補 文部科学省
保存期慢性腎臓病から腎不全への進行を阻止する治療法開発に関する調査研究	野田 裕美	慢性腎臓病病態治療学講座	1,000	補 東京都
滑膜幹細胞による膝半月板再生	関矢 一郎	軟骨再生学講座	65,415	補 文部科学省

小計14件
計164件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、該当医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Biol Chem 286:30263-30273, 2011	c-Cbl and Cbl-b ligases mediate 17-allylaminodemethoxygeldanamycin-induced degradation of autophosphorylated Ftk3 kinase with internal tandem duplication through the ubiquitin proteasome pathway.	Oshikawa G	血液内科
PLoS ONE 6:e27397, 2011	DNA damage stress and inhibition of Jak2-V617F cause its degradation and synergistically induce apoptosis through activation of GSK3 β .	Nagao T	血液内科
PLoS Pathog 7:e1002326, 2011	Novel mouse xenograft models reveal a critical role of CD4 $^{+}$ T cells in the proliferation of EBV-infected T and NK cells.	Imadome K, Yajima M, Arai A, Nakazawa A, Kawano F, Ichikawa S, Shimizu N, Yamamoto N, Morio T, Ohga S, Nakamura H, Ito M, Miura O, Komano J, Fujiwara S	血液内科
Int J Hematol 93:624-632, 2011	Nilotinib as frontline therapy for patients with newly diagnosed Ph $^{+}$ chronic myeloid leukemia in chronic phase: results from the Japanese subgroup of ENESTnd.	Nakamae H, Shibayama H, Kurokawa M, Fukuda T, Nakaseko C, Kanda Y, Nagai T, Ohnishi K, Maeda Y, Matsuda A, Amagasaki T, Yanada M	血液内科
Arthritis Res Ther. 2011 Sep 29;13(9):R158	Chemerin activates fibroblast-like synoviocytes in patients with rheumatoid arthritis.	Kaneko K	膠原病・リウマチ内科
Pulm Pharmacol Ther. 2011 Aug;24(4):401-6	Tacrolimus-induced pulmonary injury in rheumatoid arthritis patients.	Koike R	膠原病・リウマチ内科
J Rheumatol. 2011 Jul;38(7):1258-64.	Incidence and risk factors for serious infection in patients with rheumatoid arthritis treated with tumor necrosis factor inhibitors: a report from the Registry of Japanese Rheumatoid Arthritis Patients for Longterm Safety.	Komano Y	膠原病・リウマチ内科
J Dermatol. 2011 Oct 31	Novel mutation in the ATP2A2 gene in a Japanese Darier's disease patient with extremely hyperkeratotic lesions.	Miyabe C	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol. 2011 Oct;21(5):553-6	Successful treatment of cyclosporine-A-resistant cytophagic histiocytic panniculitis with tacrolimus.	Miyabe Y, Murata Y, Baba Y, Ito E, Nagasaka K	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol. 2011 Oct 5	Effects of intravenous immunoglobulin therapy in Japanese patients with polymyositis and dermatomyositis resistant to corticosteroids: a randomized double-blind placebo-controlled trial.	Miyasaka N	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol. 2011 Jun;21(3):260-6	Therapeutic effect of D1-like dopamine receptor antagonist on collagen-induced arthritis of mice.	Nakashioya H	膠原病・リウマチ内科
J Clin Rheumatol. 2011 Aug;17(5):288	Prominent splenic microcalcifications in a patient with systemic lupus erythematosus complicated by antiphospholipid syndrome.	Nonomura Y	膠原病・リウマチ内科
J Dermatol Sci. 2011 Mar;61(3):215-7	Addition of the collagen binding domain of fibronectin potentiates the biochemical availability of hepatocyte growth factor for cutaneous wound healing.	Okiyama N	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol. 2011 Aug;21(4):444-8	The REAL database reveals no significant risk of serious infection during treatment with a methotrexate dose of more than 8 mg/week in patients with rheumatoid arthritis.	Sakai R	膠原病・リウマチ内科
Genes Dev. 2011 Apr 15;25(8):795-800	Autophagy-deficient mice develop multiple liver tumors.	Takamura A, Komatsu M, Hara T, Sakamoto A, Kishi C, Waguri S, et al	膠原病・リウマチ内科
Int Immunol. 2011 Mar;23(3):177-83	Anti-arthritis effect of E3 ubiquitin ligase, c-MIR, expression in the joints.	Toyomoto M	膠原病・リウマチ内科
J Rheumatol. 2011 Apr;38(4):777; author reply 8	Methotrexate and trimethoprim-sulfamethoxazole for Pneumocystis pneumonia prophylaxis.	Yamazaki H	膠原病・リウマチ内科
J Atheroscler Thromb 2011(Epub ahead of print)	Overexpression of receptor for advanced glycation end products induces monocyte chemoattractant protein-1 expression in rat vascular smooth muscle cell line.	Hayakawa E, Yoshimoto T, Sekizawa N, Sugiyama T, Hirata Y	内分泌・代謝内科
Endocr J 2011;58:297-303	Differential gene expression profiles of POMC-related enzymes, transcription factors and receptors between non-pituitary and pituitary ACTH-secreting tumors.	Tani Y, Sugiyama T, Izumiya H, Yoshimoto T, Yamada S, Hirata Y	内分泌・代謝内科
Obes Res Clin Prac 2011 (Epub ahead of print)	Periodontal treatment with topical antibiotics improves glycemic control in association with elevated serum adiponectin in patients with type 2 diabetes mellitus.	Bharti P, Katagiri S, Nitta H, Nagasawa T, Kobayashi H, Takeuchi Y, Izumiya H, Uchimura I, Inoue S, Izumi Y	内分泌・代謝内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J. Cell Sci. 124:1391-5, 2011	Phenotypes of pseudohypoaldosteronism type II caused by the WNK4 D551A missense mutation are dependent on the WNK-OSRI/SPAK kinase cascade.	Rai T	腎臓内科
J. Biol.Chem. 286:3342-50, 2011	The NPC motif of aquaporin-11, unlike the NPA motif of known aquaporins, is essential for full expression of molecular function.	Sasaki S	腎臓内科
Clin. Exp. Nephrol. 15:195-202, 2011	Regulation of WNK1 kinase by extracellular potassium.	Naito S	腎臓内科
Am. J. Physiol. Renal. Physiol. 301:F297-307, 2011	Generation and analyses of RBL barttin knockin mouse.	Rai T	腎臓内科
Biology Open BIO2011048, 2011, published online	A minor role of WNK3 in regulating phosphorylation of renal NKCC2 and NCC cotransporters in vivo.	Sohara E, Rai T, Sasaki S, Uchida S	腎臓内科
Clin. Exp. Nephrol. 2011 Dec 10, published online	Daily variance of urinary excretion of AQP2 determined by sandwich ELISA method.	Sasaki S	腎臓内科
PLoS One. 6:e24277, 2011	Acute insulin stimulation induces phosphorylation of the Na-Cl cotransporter in cultured distal mpkDCT cells and mouse kidney.	Sohara E	腎臓内科
Int J Cardiol, 153(2): E29-E31, Dec 2011	Serial coronary angioscopic findings of drug-eluting stents implanted in a chronic totally occluded lesion.	Sugiyama T, Isobe M	循環器内科
Heart Vessel 26: 440-448, 2011	No severe pulmonary vein stenosis after extensive encircling pulmonary vein isolation: 12-month follow-up with 3D computed tomography.	Maeda S, Iesaka Y, Otomo K, Uno K, Nagata Y, Suzuki K, Hachiya H, Goya M, Takahashi A, Fujiwara H, Isobe M	循環器内科
Heart. 2011 Apr; 97(8):668-73	Long-Term Clinical Outcome of Extensive Pulmonary Vein Isolation-Based Catheter Ablation Therapy in Patients with Paroxysmal and Persistent Atrial Fibrillation.	Miyazaki S, Kuwahara T, Kobori A, Takahashi Y, Takei A, Sato A, Isobe M, Takahashi A	循環器内科
Transplantation. 91(1): 21-26, 2011 (Jan)	The effects of pharmacological plasminogen activator inhibitor-1 inhibition in acute and chronic rejection in murine cardiac allografts.	Ogawa M, Suzuki J (corresponding author), Yamaguchi Y, Muto S, Itai A, Hirata Y, Isobe M, Nagai R	循環器内科
J Period Res, 46: 176-183, 2011	Porphyromonas gingivalis Promotes Murine Abdominal Aortic Aneurysms via Matrix Metalloproteinase-2 Induction.	Aoyama N, J Suzuki, Wang D, Ogawa M, Kobayashi N, Hanatani T, Takeuchi Y, Izumi Y, Isobe M	循環器内科
Cardiovasc Res 89: 308-319, 2011	Adiponectin protects doxorubicin-induced cardiomyopathy by anti-apoptotic effects through AMPK upregulation in mice.	Konishi M, Haraguchi G, Ishihara T, Ohgashi H, Saito K, Nakano Y, Isobe M	循環器内科
Circ J 75(3): 589-595, 2011	Synergistic Effect of Combined HMG-CoA Reductase Inhibitor (Statin) and Angiotensin-II Receptor Blocker Therapy in Patients with Chronic Heart Failure - The HF-COSTAR Trial-	Maejima Y, Nobori K, Ono Y, Adachi S, Suzuki J, Hirao K, Isobe M, Ito H	循環器内科
J Cardiovasc Pharm 57(3): 365-372, March 2011	The anti-inflammatory mechanism of prostaglandin E2 receptor 4 activation in rat experimental autoimmune myocarditis.	Ngoc PB, Suzuki J, Ogawa M, Hishikari K, Takayama K, Hirata Y, Nagai R, Isobe M	循環器内科
Eur Heart J 32(10): 1251-1259, May 2011	In vivo critical fibrous cap thickness for rupture-prone coronary plaques assessed by optical coherence tomography.	Isobe M	循環器内科
J Am Coll Cardiol 57:1712-1713, Apr 2011	Sensitive assessment of activity of Takayasu's arteritis by pentraxin3, a new biomarker.	Ishihara T, Isobe M	循環器内科
Circ J 75(8):1982-1991, 2011	Additive Effects of β -blockers on Renin-Angiotensin-System Inhibitors for Patients after Acute Myocardial Infarction Treated with Primary Coronary Revascularization.	Konishi M, Haraguchi G, Yoshikawa S, Kimura S, Inagaki H, Isobe M	循環器内科
Circ J 75(8):2005-2012, 2011	The effect of adiponectin on the cardiac allograft vasculopathy.	Ishihara T, Haraguchi G, Konishi M, Ohgashi H, Saito K, Nakano Y, Isobe M	循環器内科
JACC: Cardiovasc Intervent 4: 483-491, 2011	Assessment of echo-attenuated plaque by optical coherence tomography and its impact on post-procedural creatine kinase-myocardial band elevation in elective stent implantation.	Isobe M	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int Heart J 52 (6): 382-387, 2011	Regulatory T Lymphocytes Attenuate Myocardial Infarction-Induced Ventricular Remodeling in Mice.	Matsumoto K, Ogawa M, Suzuki J, Hirata Y, Nagai R, Isobe M	循環器内科
Circulation, 124: 2380-2387, 2011	Renal function after catheter ablation of atrial fibrillation.	Isobe M	循環器内科
Circ J 75: 2343-2349, 2011	Incidence of late thromboembolic events after catheter ablation of atrial fibrillation.	Yagishita A, Isobe M	循環器内科
Int Heart J 52 (6): 388-392, 2011	Effects of pharmacological suppression of plasminogen activator inhibitor-1 in myocardial remodeling after ischemia reperfusion injury.	Watanabe R, Nakajima T, Ogawa M, Suzuki J, Muto S, Itai A, Hirata Y, Nagai R, Isobe M	循環器内科
Am J Cardiol 108(4): 514-517, Aug 2011	Impact of Coronary Calcium on Outcome Following Sirolimus-Eluting Stent Implantation.	Tanabe K, Kishi S, Aoki J, Tanimoto S, Onuma Y, Yachi S, Taniwaki M, Nakajima Y, Nakajima H, Hara K, Isobe M	循環器内科
Hepatology. 55:20-29, 2012	Association of gene expression involving innate immunity and genetic variation in IL28B with antiviral response.	Asahina Y, Tsuchiya K, Muraoka M, Tanaka K, Suzuki Y, Tamaki N, Hoshioka Y, Yasui Y, Katoh T, Hosokawa T, Ueda K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Kurosaki M, Enomoto N, Nitta S, Sakamoto N, Izumi N	消化器内科
Journal of Virology. 85: 5986- 5994, 2011	Analysis of interferon signaling by infectious hepatitis C virus clones with substitutions of core amino acids 70 and 91.	Funaoka Y, Sakamoto N, Nakagawa M, Kakinuma S, Suda G, Watanabe T, Nitta S, Kitazume A, Kiyohashi K, Murakawa M, Azuma S, Tsuchiya K, Watanabe M	消化器内科
(Epub ahead of print)Inflamm Bowel Dis. 2011	Retrieval of serum infliximab level by shortening the maintenance infusion interval is correlated with clinical efficacy in Crohn's disease.	Hibi T, Sakuraba A, Watanabe M, Motoya S, Ito H, Motegi K, Kinouchi Y, Takazoe M, Suzuki Y, Matsumoto T, Kawakami K, Matsumoto T, Hirata I, Tanaka S, Ashida T, Matsui T	消化器内科
J Gastroenterol. 46:1111-1119, 2011	Pretreatment prediction of anemia progression by pegylated interferon alpha-2b plus ribavirin combination therapy in chronic hepatitis C infection: decision-tree analysis.	Hiramatsu N, Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Sugauchi F, Tamori A, Kakinuma S, Matsuura K, Izumi N	消化器内科
Inflamm Bowel Dis. 17: 1063- 1072, 2011	Magnetic resonance enterocolonography is useful for simultaneous evaluation of small and large intestinal lesions in Crohn's disease.	Hyun SB, Kitazume Y, Nagahori M, Torihara A, Fujii T, Tsuchiya K, Suzuki S, Okada E, Araki A, Naganuma M, Watanabe M	消化器内科
J Gastroenterol. 46: 191- 202, 2011	Longitudinal cell formation in the entire human small intestine is correlated with the localization of Hst1 and Klf4.	Iwasaki M, Tsuchiya K, Okamoto R, Zheng X, Kano Y, Okamoto E, Okada E, Araki A, Suzuki S, Sakamoto N, Kitagaki K, Akashi T, Eishi Y, Nakamura T, Watanabe M	消化器内科
Hepatol Int. 5:789-799, 2011	Analysis of the complete open reading frame of hepatitis C virus in genotype 2a infection reveals critical sites influencing the response to peginterferon and ribavirin therapy.	Kadokura M, Maekawa S, Sueki R, Miura M, Komase K, Shindo H, Amenya F, Uetake T, Inoue T, Sakamoto M, Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe M, Enomoto N	消化器内科
Antimicrob Agents Chemother. (in press), 2012	Identification of novel N-(morpholine-4-carboxyloxy) amidine compounds as potent inhibitors against hepatitis C virus replication.	Kusano-Kitazume A, Sakamoto N, Okuno Y, Sekine-Osajima Y, Nakagawa M, Kakinuma S, Kiyohashi K, Nitta S, Murakawa M, Azuma S, Nishimura-Sakurai Y, Hagiwara M, Watanabe M	消化器内科
J Gastroenterol. 46: 401- 409, 2011	Pretreatment prediction of response to peginterferon plus ribavirin therapy in genotype 1 chronic hepatitis C using data mining analysis.	Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Hiramatsu N, Sugauchi F, Yatsuhashi H, Izumi N.	消化器内科
(Epub ahead of print)J Hepatol. 2011	Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C.	Kurosaki M, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, Matsuura K, Kakinuma S, Sugauchi F, Sakamoto N, Nakagawa M, Izumi N	消化器内科
Antivir Ther. 17:35-43, 2011	Age and total ribavirin dose are independent predictors of relapse after interferon therapy in chronic hepatitis C revealed by data mining analysis.	Kurosaki M, Hiramatsu N, Sakamoto M, Suzuki Y, Iwasaki M, Tamori A, Matsuura K, Kakinuma S, Sugauchi F, Sakamoto N, Nakagawa M, Yatsuhashi H, Izumi N	消化器内科
J Med Virol. 83: 445- 452, 2011	Sequences in the interferon sensitivity-determining region and core region of hepatitis C virus impact pretreatment prediction of response to PEG-interferon plus ribavirin.	Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M, Suzuki Y, Hiramatsu N, Sugauchi F, Tamori A, Nakagawa M, Izumi N	消化器内科
J Hepatol. 54: 439- 448, 2011	Pre-treatment prediction of response to pegylated-interferon plus ribavirin for chronic hepatitis C using genetic polymorphism in IL28B and viral factors.	Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Honda M, Sugiyama M, Matsuura K, Sugauchi F, Asahina Y, Nakagawa M, Watanabe M, Sakamoto M, Maekawa S, Sakai A, Kaneko S, Ito K, Masaki N, Tokunaga K, Izumi N, Mizokami M	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun, 2012	Real-time analysis of P-glycoprotein-mediated drug transport across primary intestinal epithelium three-dimensionally cultured in vitro.	Mizutani T, Nakamura T, Morikawa R, Fukuda M, Mochizuki W, Yamauchi Y, Nozaki K, Yui S, Nemoto Y, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, Watanabe M	消化器内科
Hepatol Int. (in press), 2012.	Association of ITPA gene variant and serum ribavirin concentration with blood cells decline in pegylated interferon-alfa plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe T, Nishimura-Sakurai Y, Onozuka I, Azuma S, Kakinuma S, Nitta S, Kiyohashi K, Kusano-Kitazume A, Murakawa M, Yoshino K, Itsui Y, Tanaka Y, Mizokami M, Watanabe M, Ochanomizu Liver Conference Study Group	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Crohns Colitis. 5: 317- 323, 2011	Conception and pregnancy outcome in women with inflammatory bowel disease: A multicentre study from Japan.	Naganuma M, Kunisaki R, Yoshimura N, Nagahori M, Yamamoto H, Kimura H, Sako M, Kawaguchi T, Takezoe M, Yamamoto S, Matsui T, Hibi T, Watanabe M	消化器内科
J Gastroenterol. 46: 129- 137, 2011	The use of traditional and newer calcineurin inhibitors in inflammatory bowel disease.	Naganuma M, Watanabe M, Hibi T	消化器内科
J Crohns Colitis. 5: 73- 74, 2011	Safety and usefulness of balloon endoscopy in Crohn's disease patients with postoperative ileal lesions.	Naganuma M, Watanabe M, Hibi T	消化器内科
Gastroenterology. 141:2130-2139, 2011	Luminal CD4+ T cells penetrate gut epithelial monolayers and egress from lamina propria to blood circulation.	Nemoto Y, Kanai T, Shinohara T, Ito T, Nakamura T, Okamoto R, Tsuchiya K, Lipp M, Eishi Y, Watanabe M	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun. 406: 134- 140, 2011	Cholestatic liver fibrosis and toxin-induced fibrosis are exacerbated in matrix metalloproteinase-2 deficient mice.	Onozuka I, Kainuma S, Kamiya A, Miyoshi M, Sakamoto N, Kiyohashi K, Watanabe T, Funacka Y, Ueyama M, Nakagawa M, Koshikawa N, Seiki M, Nakauchi H, Watanabe M	消化器内科
J Med Virol. 83: 871- 878, 2011	Association of IL28B variants with response to pegylated-interferon alpha plus ribavirin combination therapy reveals intersubgenotypic differences between genotypes 2a and 2b.	Sakamoto N, Nakagawa M, Tanaka Y, Sekine-Osajima Y, Ueyama M, Kurosaki M, Nishida N, Tamori A, Yuki NS, Itsui Y, Azuma S, Kakinuma S, Hige S, Itoh Y, Tanaka E, Hiasa Y, Izumi N, Tokunaga K, Mizokami M, Watanabe M	消化器内科
Bioorg Med Chem. 19:6892-6905, 2011	A new method for induced fit docking (GENIUS) and its application to virtual screening of novel HCV NS3-4A protease inhibitors.	Takaya D, Yamashita A, Kamijo K, Gomi J, Ito M, Maekawa S, Enomoto N, Sakamoto N, Watanabe Y, Arai R, Ueyama H, Honma T, Matsumoto T, Yokoyama S	消化器内科
Hum Mol Genet. 20:3507-3516, 2011	Genome-wide association study identified ITPA/DDRGI1 variants reflecting thrombocytopenia in pegylated interferon and ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	Tanaka Y, Kurosaki M, Nishida N, Sugiyama M, Matsuura K, Sakamoto N, Enomoto N, Yatsuhashi H, Nishiguchi S, Hino K, Hige S, Itoh Y, Tanaka E, Mochida S, Honda M, Hiasa Y, Koike A, Sugauchi F, Kaneko S, Izumi N, Tokunaga K, Mizokami M	消化器内科
Int J Mol Med. 27: 619- 624, 2011	Association between lipid accumulation and the cannabinoid system in Huh7 cells expressing HCV genes.	Toyoda M, Kitaoka A, Machida K, Nishinakagawa T, Yada R, Kohjima M, Kato M, Kotoh K, Sakamoto N, Shioda G, Nakamura M, Nakashima M, Enjoji M	消化器内科
Antivir Ther. 16: 1081- 1091, 2011	Serum interleukin-6 levels correlate with resistance to treatment of chronic hepatitis C infection with pegylated-interferon- α 2b plus ribavirin.	Ueyama M, Nakagawa M, Sakamoto N, Onozuka I, Funacka Y, Watanabe T, Nitta S, Kiyohashi K, Kitazume A, Murakawa M, Nishimura-Sakurai Y, Sekine-Osajima Y, Itsui Y, Azuma S, Kainuma S, Watanabe M, and the Ochanomizu-Liver Conference Study Group	消化器内科
J Crohns Colitis. 6:160-173, 2012	Adalimumab for the Induction and Maintenance of Clinical Remission in Japanese Patients With Crohn's Disease.	Watanabe M, Hibi T, Lomax KG, Paulson SK, Chao J, Alam M.S, Camez AC	消化器内科
J Gastroenterol. 46: 11- 16, 2011	Target biopsy or step biopsy? Optimal surveillance for ulcerative colitis: a Japanese nationwide randomized controlled trial.	Watanabe T, Ajioka Y, Matsumoto T, Tomotsugu N, Takebayashi T, Inoue E, Jizuka B, Igarashi M, Iwao Y, Ohtsuka K, Kudo SE, Kobayashi K, Sada M, Matsumoto T, Hirata I, Murakami K, Nagahori M, Watanabe K, Hida N, Ueno F, Tanaka S, Watanabe M, Hibi T	消化器内科
Int J Oncol. 38: 201- 207, 2011	RUNX3 copy number predicts the development of UC-associated colorectal cancer.	Watanabe T, Kobunai T, Ikeuchi H, Yamamoto Y, Matsuda K, Ishihara S, Nozawa K, Inuma H, Kanazawa T, Tanaka T, Yokoyama T, Konishi T, Eshima K, Ajioka Y, Hibi T, Watanabe M, Muto T, Nagawa H	消化器内科
Clin Colorectal Cancer. 10: 134- 141, 2011	Predicting ulcerative colitis-associated colorectal cancer using reverse-transcription polymerase chain reaction analysis.	Watanabe T, Kobunai T, Yamamoto Y, Ikeuchi H, Matsuda K, Ishihara S, Nozawa K, Inuma H, Kanazawa T, Tanaka T, Yokoyama T, Konishi T, Eshima K, Ajioka Y, Hibi T, Watanabe M, Muto T, Nagawa H	消化器内科
Antimicrob Agent Chemother. 55: 2537- 2545, 2011	Inhibitory effect of a triterpenoid compound, with or without interferon, on Hepatitis C virus infection.	Watanabe T, Sakamoto N, Nakagawa M, Kakinuma S, Itsui Y, Nishimura-Sakurai Y, Ueyama M, Funacka Y, Kitazume A, Nitta S, Kiyohashi K, Murakawa M, Azuma S, Tsuchiya K, Oooka S, Watanabe M	消化器内科
Inflamm Bowel Dis. 18:17-24, 2011	Interval of less than 5 years between the first and second operation is a risk factor for a third operation for Crohn's disease.	Watanabe T, Sesaki I, Sugita A, Fukushima K, Futami K, Hibi T, Watanabe M	消化器内科
(Epub ahead of print) J Immunol. 2012.	The development of colitogenic CD4+ T cells is regulated by IL-7 in collaboration with natural killer cell function in a murine model of colitis.	Yamaji O, Nagaishi T, Totsuka T, Onizawa M, Suzuki M, Tsuge N, Hasegawa A, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Arase H, Kanai T, Watanabe M	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun. 416:119- 124, 2011	Use of human hepatocyte-like cells derived from induced pluripotent stem cells as a model for hepatocytes in hepatitis C virus infection.	Yoshida T, Takayama K, Kondoh M, Sakurai F, Tani H, Sakamoto N, Matsuura Y, Mizuguchi H, Yagi K	消化器内科
Nat Med. 2011	Functional engraftment of colon epithelium expanded in vitro from a single adult Lgr5+stem cell.	Yui S, Nakamura T, Seto T, Nemoto Y, Mizutani T, Zheng X, Ichinose S, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, Clevers H, Watanabe M	消化器内科
Inflamm Bowel Dis. 11: 2251- 2260, 2011	Suppression of hah1 gene expression directly regulated by hes1 via notch signaling is associated with goblet cell depletion in ulcerative colitis.	Zheng X, Tsuchiya K, Okamoto R, Iwasaki M, Kano Y, Sakamoto N, Nakamura T, Watanabe M	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
PLoS One 2011;6 (9):e24514	Analysis of the complete open reading frame of genotype 2b hepatitis C virus in association with the response to peginterferon and ribavirin therapy.	Kadokura M, Maekawa S, Sueki R, Miura M, Komase K, Shindo H, Ameniya F, Uetake T, Inoue T, Sakamoto M, Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe M, Enomoto N	消化器内科
Eur J Med Chem (in press), 2012	Inhibition of hepatitis C virus NS5B polymerase by S-trityl-L-cysteine derivatives.	Kaushik-Basu N, Sakamoto N	消化器内科
J Med Dent Sci 59:39-48, 2012	Hepatic stellate cells mediate differentiation of dendritic cells from monocytes.	Ozeki R, Kakinuma S, Asahina K, Shimizu- Saito K, Arii S, Tanaka Y, Teraoka H	消化器内科
Hepato Res 41:258-269, 2011	Studies on virus kinetics using infectious fluorescence-tagged hepatitis C virus cell culture.	Yamamoto M, Sakamoto N, Nakamura T, Itsui Y, Nakagawa M, Nishimura-Sakurai Y, Kakinuma S, Azuma S, Kato T, Wakita T, Watanabe M	消化器内科
Nucleic Acids Res 2011; 39(10):e64	Adenovirus vector-mediated assay system for hepatitis C virus replication.	Yoshida T, Kondoh M, Ojima M, Mizuguchi H, Yamagishi Y, Sakamoto N, Yagi K	消化器内科
Hepatology Res 2010; 40: 1063-1071	Association of IL28B polymorphism with response to pegylated-interferon alpha plus ribavirin combination therapy in patients with chronic genotype 2 hepatitis C.	Naoya Sakamoto, Yasuhiro Tanaka, Mina Nakagawa, Hiroshi Yatsuhashi, Shuhei Nishiguchi, Nobuyuki Enomoto, Seishin Azuma, Yuki Nishimura-Sakurai, Sei Kakinuma, Nao Nishida, Katsushi Tokunaga, Masao Honda, Kiyooki Ito, Masashi Mizokami and Mamoru Watanabe	消化器内科
Nature Genetics, 2009; 41(10): 1105-1109	Genome-wide association of IL28B with response to pegylated interferon- α and ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	Yasuhiro Tanaka, Nao Nishida, Masaya Sugiyama, Masayuki Kurosaki, Kentaro Matsuura, Naoya Sakamoto, Mina Nakagawa, Masaki Korenaga, Kelsuke Hino, Shuhei Hige, Yoshito Ito, Eiji Mita, Eiji Tanaka, Satoshi Mochida, Yoshikazu Murawaki, Masao Honda, Akito Sakai, Yoichi Hiasa, Shuhei Nishiguchi, Asako Koike, Isao Sakaida, Masatoshi Imamura, Kiyooki Ito, Koji Yano, Naohiko Masaki, Fuminaka Sugauchi, Namiki Izumi, Katsushi Tokunaga & Masashi Mizokami	消化器内科
Hepato Int. 2012, Epub	Association of ITPA gene variation and serum ribavirin concentration with a decline in blood cell concentrations during pegylated interferon-alpha plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C	Mina Nakagawa, Naoya Sakamoto, Takako Watanabe, Yuki Nishimura-Sakurai, Izumi Onozuka, Seishin Azuma, Sei Kakinuma, Sayuri Nitta, Kei Kiyohashi, Akiko Kusano-Kitazume, Miyako Murakawa, Kohel Yoshino, Yasuhiro Itsui, Yasuhiro Tanaka, Masashi Mizokami, Mamoru Watanabe, the Ochanomizu-Liver Conference Study Group	消化器内科
Journal of Medical Case Reports. 2012;in press	Endoscopic ultrasound with double-balloon endoscopy for the diagnosis of inverted Meckel's diverticulum: a case report.	AKIHIRO ARAKI, SHINJI SUZUKI, KIICHIRO TSUCHIYA, SHIGERU OSHIMA, ERIKO OKADA AND MAMORU WATANABE.	消化器内科
Digestive Endoscopy. 2012;24(8):in press.	MODIFIED SINGLE-OPERATOR METHOD FOR DOUBLE-BALLOON ENDOSCOPY.	Akihiro Araki, Kiichiro Tsuchiya, Shigeru Oshima, Eriko Okada, Shinji Suzuki, Junko Morio Akiyama, Toshimitsu Fujii, Ryuichi Okamoto, Mamoru Watanabe	消化器内科
J Gastroenterol Hepatol. 2009 May;24(5):770-775.	Single-operator method for double-balloon endoscopy: a pilot study.	Araki A, Tsuchiya K, Okada E, Suzuki S, Oshima S, Okamoto R, Kanai T, Watanabe M	消化器内科
Biochem. Biophys. Res. Comm. 417:162-168, 2012.	Transducible form of p47phox and p67phox compensate for defective NADPH oxidase activity in neutrophils of patients with chronic granulomatous disease.	Honda F, Takagi M, Mizutani S, Morio T	小児科
Journal of Experimental Medicine. 208(2): 235-249, 2011	Defective IL-10 signaling in hyper-IgE syndrome results in impaired generation of tolerogenic dendritic cells and induced regulatory T cells.	Masayuki Nagasawa	小児科
J Neurol. 2011;258(12): 2293-2295	Anhidrosis associated with hypothalamic lesions related to anti-aquaporin 4 autoantibody.	Sekiguchi T	精神科
BMJ Case Reports, doi:10.1136/bcr.09.2011.4845	Memory deficits due to brain injury: unique PET findings and dream alterations.	Nishida M	精神科
Neuroscience Research. 2011;71:161-167	Effects of novelty stress on hippocampal gene expression, corticosterone and motor activity in mice.	Kurumaji A	精神科
Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 2011;156:581-592	Association Study of Nogo-related Genes with Schizophrenia in a Japanese Case-control Sample.	Jitoku D	精神科
精神医学. 2011;53: 543-549	Aripiprazoleのせん妄に対する有用性。	吉池卓也, 竹内 崇	精神科
J ECT. 2012;28:50-51	Improvement of asymmetrical temporal blood flow in refractory oral somatic delusion after successful electroconvulsive therapy	Uezato A	精神科
Behavioral and Brain Functions, 2012; 8:2 (電子版先行)	Further evidence for a male-selective genetic association of synapse-associated protein 97 (SAP97) gene with schizophrenia.	Uezato A, Kimura-Sato J	精神科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Psychogeriatrics, in press (accepted on 31 Jan 2012).	Donepezil-induced sleep spindle in a patient with dementia with Lewy bodies.	Ozaki A, Nishida M	精神科
J Gastroenterology 2011;46:203-211	Characteristics of recurrence after curative resection for T1 colorectal cancer: Japanese multicenter study.	Kobayashi H, Sugihara K	乳腺外科 大腸・肛門外科
Oncology Reports 2011;25:789-794	Effect of classification based on combination of mutation and methylation in colorectal cancer prognosis.	Aoyagi H, Sugihara K	乳腺外科 大腸・肛門外科
Digestive Surgery 2011;28:190-197	Clinical significance of lymph node ratio and location of nodal involvement in patients with right colon cancer.	Kobayashi H, Sugihara K	乳腺外科 大腸・肛門外科
Clin Cancer Res 2011 17(8):2444-2450	Clinical significance of osteoprotein expression in human colorectal cancer.	Tsakamoto S, Sugihara K	乳腺外科 大腸・肛門外科
Int J Colorectal Dis 2011;26:891-896	Study Group for Rectal Cancer Surgery of the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum, Lymph node ratio is a powerful prognostic index in patients with stage III distal rectal cancer: a Japanese multicenter study.	Kobayashi H, Sugihara K	乳腺外科 大腸・肛門外科
Jpn J Clin Oncol 2011;41:299-302	Does 1 year adjuvant chemotherapy with oral 5-FUs in colon cancer reduce the peak of recurrence in 1 year and provide long-term OS benefit?	Hamada C, Sakamoto J, Satoh T, Sadahiro S, Mishima H, Sugihara K, Saji S, Tomita N	乳腺外科 大腸・肛門外科
2011 Dec 1;129(11):2543-52. Epub 2011 Jun 9	18A expression: clinical relevance to colorectal cancer progression. Int J Cancer.	Nagahara M, Nishida N, Iwatsuki M, Ishimaru S, Mimori K, Tanaka F, Nakagawa T, Sato T, Sugihara K, Hoon DS, Mori M, Kinesin	乳腺外科 大腸・肛門外科
Oncology Reports 2011;25: 513-518	Methylation of BNIP3 and DAPK indicates lower response to chemotherapy and poor prognosis in gastric cancer.	Sugita H, Jida S, Inokuchi M, Ishiguro M, Ishikawa T, Takagi Y, Enjoji M, Yamada H, Uetake H, Kojima K, Sugihara K	乳腺外科 大腸・肛門外科
Epigenetics 2011; 6: 1001-1011	Lymphovascular invasion of colorectal cancer is correlated to SPARC expression in the tumor stromal microenvironment.	Yoshimura T, Nagahara M, Kuo C, Turner RR, Soon-Shiong P, Hoon DS	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法 2011;38(12):2180-2182	Lapatinib+Capecitabine併用療法が奏功した乳癌肝転移の1例。	佐藤隆重、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法 2011;38(12):2268-2270	大腸内分分泌多発肝転移による肝不全に肝動注が有効であった1例。	菊池章史、植竹宏之、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法 2011;38(12):2271-2273	肝動脈化学療法により長期生存が得られた大腸内分分泌細胞癌肝転移の1例。	山内慎一、植竹宏之、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法 2011;38(12):2301-2303	大腸癌術後多発肝転移に対し化学療法施行後2回肝切除を施行した1例。	小林宏寿、植竹宏之、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
外科2011;73(2):211-213	局所再発を繰り返す悪性葉状腫瘍に対して胸壁切除広背筋皮弁再建を施行した1例。	中川剛士、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
癌と化学療法 2011;38(12):2313-2315	腫瘍ドレナージ術を先行した腹壁腫瘍合併下行結腸癌の1例。	樋口哲郎、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
日本臨床外科学会雑誌 2011;72(3):604-607	一期的乳房再建を施行した原発性乳腺血管肉腫の1例。	小田剛史、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
コンセンサス治療(1347-4618)10巻1号 Page9-11(2011.02)	【進行・再発大腸癌の治療】肝転移の治療戦略としての補助療法のある方(解説/特集)	植竹宏之、石川敏昭、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
臨床消化器内科(0911-601X)26巻6号 Page661-666	【消化器癌化学療法2011-最近の話題】大腸癌の術後補助化学療法 推奨レジメンをどう使い分けるか?	植竹宏之、石川敏昭、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科
血管医学(1345-9031)13巻1号 Page19-25	【癌の抗血管新生療法】大腸癌に対する抗血管新生療法	植竹宏之、石川敏昭、杉原健一	乳腺外科 大腸・肛門外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Hepatobiliary Pancreat Sci (2012) 19:523-527	Therapeutic strategies for hepatic metastasis of colorectal cancer: overview	Kenichi Sugihara · Hiroyuki Uetake	乳腺外科 大腸・肛門外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci (2012) 19:509-514	Fate of metastatic foci after chemotherapy and usefulness of contrast-enhanced intraoperative ultrasonography to detect minute hepatic lesions	Hiroyuki Uetake · Shiriji Tanaka · Toshiaki Ishikawa · Kenichi Sugihara · Shigeki Arai	乳腺外科 大腸・肛門外科
Ann Surg Oncol 18:2093-2103, 2011	mportin- α 1 as a novel prognostic target for hepatocellular carcinoma.	Yoshitake K, Tanaka S, Mogushi K, Aihara A, Murakata A, Matsumura S, Mitsunori Y, Yasen M, Ban D, Noguchi N, Irie T, Kudo A, Nakamura N, Tanaka H, Arai S	肝胆臓外科
Hepatology, 54:1273-1281, 2011	Oxidative stress pathways in non-cancerous human liver tissue to predict hepatocellular carcinoma recurrence; a prospective multi-center study.	Tanaka S	肝胆臓外科
Am J Transplant. 2011 Nov 4. doi: 10.1111/j. 1600-5143.2011.03795.x. [Epub ahead of print]	Overcoming Memory T-Cell Responses for Induction of Delayed Tolerance in Nonhuman Primates.	Yamada Y, Boskovic S, Aoyama A, Murakami T, Putheti P, Smith RN, Ochial T, Nadazdin O, Koyama I, Boenisch O, Najafian N, Bhasin MK, Colvin RB, Madsen JC, Strom TB, Sachs DH, Benichou G, Cosimi AB, Kawai T	肝胆臓外科
International Journal of Oncology, in press	DNA binding protein A expression and methylation status in hepatocellular carcinoma and the adjacent tissue.	Yasen M, Obulhasim G, Kajino K, Mogushi K, Mizushima H, Tanaka S, Tanaka H, Hino O, Arai S	肝胆臓外科
Cancer Science, in press	Multicellular tumor spheroid formation in duplex microcapsules for analysis of chemosensitivity.	Sakai S, Inamoto K, Liu Y, Tanaka S, Arai S, Taya M	肝胆臓外科
Appl Radiat Isot 69(12):1819-1822, 2011	A clinical trial protocol for second line treatment of malignant brain tumors with BNCT at University of Tsukuba.	Aiyama H, Nakai K, Yamamoto T, Nariai T, Kumada H, Ishikawa E, Isobe T, Endo K, Takada T, Yoshida F, Shibata Y, Matsumura A	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo) 51(5): 344-348, 2011	Preoperative factors associated with antiepileptic drug withdrawal following surgery for intractable temporal lobe epilepsy.	Maehara T, Ohno K	脳神経外科
Epilepsy Res 94: 149-157, 2011	Abnormal mismatch negativity for pure-tone sounds in temporal lobe epilepsy.	Miyajima M, Ohta K, Hara K, Iino H, Maehara T, Hara M, Matsuura M, Matsushima E	脳神経外科
Neuroimage 54(2): 1063-1069, 2011	MRI reveals differential regulation of retinal and choroidal blood volumes in rat retina.	Nair G, Tanaka Y, Kim M, Olson DE, Thulä PM, Pardue MT, Duong TQ	脳神経外科
J Cereb Blood Flow Metab 31(6): 1403-1411, 2011	Arterial spin labeling and dynamic susceptibility contrast OBF MRI in postischemic hyperperfusion, hypercapnia, and after mannitol injection.	Tanaka Y, Nagaoka T, Nair G, Ohno K, Duong TQ	脳神経外科
J Nucl Med 52(8): 1322-1328, 2011	Whole-body distribution and brain tumor imaging with ¹¹ C-4DST: a pilot study.	Toyohara J, Nariai T, Sakata M, Oda K, Iehli K, Kawabe T, Irie T, Sage T, Kubota K, Ishiwata K	脳神経外科
Appl Radiat Isot 69(12): 1817-1818, 2011	The status of Tsukuba BNCT trial: BPA-based boron neutron capture therapy combined with X-ray irradiation.	Yamamoto T, Nakai K, Nariai T, Kumada H, Okumura T, Mizumoto M, Tsuboi K, Zaboronok A, Ishikawa E, Aiyama H, Endo K, Takada T, Yoshida F, Shibata Y, Matsumura A	脳神経外科
てんかん研究28(3): 493-494, 2011	側頭葉てんかん患者におけるFDG-PET統計学的解析を用いた側頭葉低代謝域の検討。	前原健壽, 成相 直, 田中洋次, 石井賢二, 石渡喜一, 大野喜久郎	脳神経外科
てんかん研究29(2): 351, 2011	側頭葉切除患者におけるFDG-PET, flumazenil-PET統計学的解析。	前原健壽, 成相 直, 田中洋次, 稲次基希, 石井賢二, 石渡喜一, 日清幹夫, 大野喜久郎	脳神経外科
日本内分泌学会雑誌 2011;87:Suppl. 41-43.	経鼻下垂体手術に於ける脳神経外科・耳鼻咽喉科の連携。	田中洋次	脳神経外科
World Neurosurgery 76(5):437-445,2011	Determinants of poor outcome after aneurysmal subarachnoid hemorrhage when both clipping and coiling are available:Prospective registry of subarachnoid aneurysms treatment (PRESAT) in Japan.	PRESAT Group	血管内治療科
World Neurosurg. 2011 Jan;75(1):73-7	Clinical characteristics and surgical outcomes of patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage and acute subdural hematoma undergoing decompressive craniectomy.	Otani N	血管内治療科
Neurosci Lett. 29:492(1) 64-9,2011	Enhancement of sciatic nerve regeneration by adenovirus-mediated expression of dominant negative RhoA and Rac1.	Kusano K	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
2011 Sep 26. doi: 10.1002/jbmb.31917. [Epub ahead of print]	Synthesis, characterization of calcium phosphates/polyurethane composites for weight-bearing implants. J Biomed Mater Res B Appl Biomater.	Yoshii T	整形外科
Spine (Phila Pa 1976). 2011 Jun 13	Hybrid Grafting using Bone Marrow Aspirate combined with Porous β -Tricalcium Phosphate and Trepine Bone for Lumbar Posterolateral Spinal Fusion: A Prospective, Comparative Study -Versus Local Bone Grafting-	Yamada T	整形外科
脊髄機能診断学33巻1号 Page169-175(2012.01)	圧迫性脊髄症患者に対する術中脊髄モニタリングにおけるBi-phasic刺激法とMono-phasic刺激法との比較。	講川 大	整形外科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 20(1):88-94, 2012	Surgical management of grade 3 medial knee injuries combined with cruciate ligament injuries.	Koga H, Muneta T, Yagishita K, Ju YJ, Sekiya I	整形外科
Am J Sports Med (in press)	The Effect of Graft Fixation Angles on Anteroposterior and Rotational Knee Laxity in Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: Evaluation Using Computerized Navigation.	Koga H, Muneta T, Yagishita K, Ju YJ, Sekiya I	整形外科
Sports Med Arthrosc Rehabil Ther Technol. 2011 Jul 28;3:15	Effects of different initial bundle tensioning strategies on the outcome of double-bundle ACL reconstruction: a cohort study.	Muneta T, Koga H, Ju YJ, Yagishita K, Sekiya I	整形外科
Cytherapy (in press)	Arthroscopic, histological, and MRI analyses of cartilage repair after a minimally invasive method of transplantation of allogeneic synovial mesenchymal stem cells into cartilage defects in pigs.	Nakamura T, Sekiya I, Muneta T, Hatsushika D, Horie M, Tsuji K, Kawarasaki T, Watanabe A, Hishikawa S, Fujimoto Y, Tanaka H, Kobayashi E	整形外科
J Orthop Res (in press)	Human mesenchymal stem cells in synovial fluid increase in the knee with degenerated cartilage and osteoarthritis.	Sekiya I, Ojima M, Suzuki S, Yamaga M, Horie M, Koga H, Tsuji K, Miyaguchi K, Ogishima S, Tanaka H, Muneta T	整形外科
Cell Tissue Res 344: 321, 2011	BMP-7 inhibits cartilage degeneration through suppression of inflammation in rat zymosan-induced arthritis.	Takahashi, T., Muneta, T., Tsuji, K., and Sekiya, I	整形外科
J Arthroplasty (in press)	High-flex Posterior Cruciate-Retaining vs Posterior Cruciate-Substituting Designs in Simultaneous Bilateral Total Knee Arthroplasty A Prospective, Randomized Study.	Yagishita K, Muneta T, Ju YJ, Morito T, Yamazaki J, Sekiya I	整形外科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2011 Mar;19(3):418-23	Radiographic description of femoral tunnel placement expressed as intercondylar clock time in double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction.	Yamazaki J, Muneta T, Koga H, Sekiya I, Ju YJ, Morito T, Yagishita K	整形外科
Int J Dermatol, 50:277-279, 2011	Possible association of Henoch-Schoenlein purpura in adults with odontogenic focal infection.	Igawa K	皮膚科
Allergy, 66:1107-1113, 2011	Basophil recruitment and activation in inflammatory skin diseases.	Ito Y	皮膚科
Am J Pathol, 179:775-82, 2011	Fc ϵ RI, but not Fc γ R, signals induce prostaglandin D2 and E2 production from basophils.	Ugajin T	皮膚科
Proc Natl Acad Sci U S A, 108:6597-602, 2011	AMPkinase-related kinase NIAK2 affects tumor growth, migration, and clinical outcome of human melanoma.	Namiki T	皮膚科
Allergy, 66:124-131, 2011	Gene silencing of STAT6 with siRNA ameliorates contact hypersensitivity and allergic rhinitis.	Hosoya K	皮膚科
Am J Pathol, 179:302-314, 2011	Dual functions of prostaglandin D2 in murine contact hypersensitivity via DP and CRTH2.	Yamamoto Y	皮膚科
皮膚病診療 33:1219-1222, 2011	歯性根尖病巣が原因と考えられた亜急性性痔瘻。	西澤 綾	皮膚科
Jpn J Clin Oncol, 41: 1373-1379, 2011	Perioperative complications of radical cystectomy after induction chemoradiotherapy in bladder-sparing protocol against muscle-invasive bladder cancer: a single institutional retrospective comparative study with primary radical cystectomy.	Iwai A	泌尿器科
Nihon Rinsho, 69 (Suppl 5):350-354, 2011	Minimum incision endoscopic radical prostatectomy.	Kihara K	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur Radiol 21: 2178-2186, 2011	Diagnostic performance of diffusion-weighted magnetic resonance imaging in bladder cancer: potential utility of apparent diffusion coefficient values as a biomarker to predict clinical aggressiveness.	Kobayashi S	泌尿器科
PLoS one, 6:e27616, 2011	ErbB2 and NF- κ B overexpression as predictors of chemoradiation resistance and putative targets to overcome resistance in muscle-invasive bladder cancer.	Koga F	泌尿器科
BJU Int. 2011 Sep 21 [Epub ahead of print]	Characteristics and clinical significance of prostate cancers missed by initial transrectal 12-core biopsy.	Numao N	泌尿器科
Urology. 77(4):915-920, 2011	A novel repeat biopsy nomogram based on three-dimensional extended biopsy.	Sakura M	泌尿器科
Cancer Sci. 102(1):137-143, 2011	Phase-II trial of combination treatment of interferon- α , cimetidine, cyclooxygenase-2 inhibitor and renin-angiotensin-system inhibitor (I-CCA therapy) for advanced renal cell carcinoma.	Tatokoro M	泌尿器科
J Urol. 185:2066-2071, 2011	Longitudinal change in renal function after radical nephrectomy in Japanese patients with renal cortical tumors.	Yokoyama M	泌尿器科
Cell Cycle. 10:4291-4299, 2011	Low-dose Hsp 90 inhibitors tumor-selectively sensitize bladder cancer cells to chemoradiotherapy.	Yoshida S	泌尿器科
Cancer Sci. 2011 Nov;102(11):1949-57. doi: 10.1111/j.1349-7006.2011.02054.x. Epub 2011 Sep 14. Review. PubMed PMID: 21812860	Biomarkers to predict response to sunitinib therapy and prognosis in metastatic renal cell cancer.	Yuasa T, Takahashi S, Hatake K, Yonese J, Fukui I	泌尿器科
日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌3(1): 101-106 2011年7月	ミニマム創内視鏡下手術の現状2010~2011(解説)。	木原和徳	泌尿器科
Br J Ophthalmol, 2011;95:205-8	Timing of recurrent uveitis in patients with Behcet's disease on infliximab therapy.	Mochizuki M	眼科
Br J Ophthalmol, 2011;95:345-349	Diagnosis of bacterial endophthalmitis by broad-range quantitative polymerase chain reaction.	Mochizuki M	眼科
Br J Ophthalmol, 2011;95:549-52	Relationship between serum infliximab levels and acute uveitis attacks in patients with Behcet's disease.	Mochizuki M	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci. 2011;52:476-84	Induction of regulatory T cells by infliximab in Behcet's disease.	Mochizuki M	眼科
Jpn J Ophthalmol, 2011;55:495-501	Diagnosis of ocular toxoplasmosis by two polymerase chain reaction (PCR) examinations: qualitative multiplex PCR and quantitative real-time PCR.	Mochizuki M	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci, 2011;52:9644-9650	Imaging Retrobulbar Subarachnoid Space around Optic Nerve by Swept Source Optical Coherence Tomography in Eyes with Pathologic Myopia.	Ohno-Matsui K	眼科
Am J Ophthalmol, 2011; 152: 420-427	Characteristics of periconus choroidal neovascularization in pathological myopia.	Nagaoka N, Shimada N, Hayashi W, Hayashi K, Moriyama M, Yoshida T, Tokoro T, Ohno-Matsui K	眼科
Jpn J Ophthalmol, 2011; 55: 378-382	Development of Macular Detachment after Successful Intravitreal Bevacizumab for Myopic Choroidal Neovascularization.	Ohno-Matsui K	眼科
Am J Ophthalmol, 2011; 152: 96-99	Natural history of lamellar macular holes in highly myopic eyes.	Ohno-Matsui K	眼科
Ophthalmology, 2011; 118: 1626-1637	Topographical analyses of shape of eyes with pathologic myopia by high-resolution three dimensional magnetic resonance imaging.	Ohno-Matsui K	眼科
Jpn J Ophthalmol, 2011; 55: 171-173	Choroidal folds radiating from edge of inferior staphyloma in eye with tilted disc syndrome.	Mochizuki M	眼科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Ophthalmol, 2011; 151: 137-147	Long-term Results of Photodynamic Therapy for Choroidal Neovascularization in Japanese Patients with Pathological Myopia.	Ohno-Matsui K	眼科
RETINA, 2011; 31: 74-80	Correlation between visual prognosis and fundus autofluorescence and optical coherence tomographic findings in highly myopic eyes with submacular hemorrhage and without choroidal neovascularization.	Ohno-Matsui K	眼科
Acta Otolaryngol 131(4): 413-418, 2011	Audiovestibular findings in a branchio-oto syndrome patient with a SIX1 mutation.	Noguchi Y	耳鼻咽喉科
日耳鼻会報 114:607-614, 2011	埋め込み型骨導補聴器の聴覚成績と術中、術後合併症の検討。	野口佳裕	耳鼻咽喉科
Emergency Medicine International Volume 2011, Article ID 858672, 3 pages, 2011	Acute abdomen in a patient with cancer pain on oxycodone	N Kishine	耳鼻咽喉科
Facial N Res Jpn31:14-15, 2011	側頭骨悪性腫瘍における顔面神経の処理。	角田篤徳	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床1040:123-127, 2011	10歳小児に発生した原発性咽頭滑膜肉腫例。	野村文敬	頭頸部外科
Auris Nasus Larynx 38(2):208-214, 2011	The approaches and outcomes of skull base surgery for the pediatric sarcoma after the initial therapy.	K Ohno	頭頸部外科
Otology & Neurology 32:686-689, 2011	Measurement of the Facial Nerve Caliber in Facial Palsy: Implications for Facial Nerve Decompression.	K Hagino	頭頸部外科
Auris Nasus Larynx 1582, 2011	Surgical management of large juvenile nasopharyngeal angiofibroma invading the infratemporal fossa with intracranial extradural parasellar involvement in an 8-year-old boy.	M Yamada	頭頸部外科
Auris Nasus Larynx 1582, 2011.	Ultrastructural morphology of juvenile psammomatoid ossifying Fibroma.	S Ariyasasthiman	頭頸部外科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2010 Oct 18. [Epub ahead of print]	Proton Beam Therapy for unresectable malignancies of the nasal cavity and paranasal sinuses.	S Zenda	頭頸部外科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 1:81(1):135-9, 2011.	Proton Beam Therapy as a Non-surgical Approach to Mucosal Melanoma of the Head and Neck: A Pilot Study.	S Zenda	頭頸部外科
Journal of Women's Health Vol.20(00), 2011	Mizunuma H, Ohta A. Natural S-(−)Equisol supplement alleviates hot flushes and other menopausal symptoms in equal nonproducing postmenopausal Japanese women.	Aso T, Uchiyama S, Matsumura Y, Taguchi M, Nozaki M, Takamatsu K, Ishizuka B, Kubota T	産婦人科
J Obstet Gynaecol Res 37(7): 741-749, 2011	Effects of oral estrogen and hypnotics on Japanese peri- and postmenopausal women with sleep disturbance.	Terauchi M, Obayashi S, Akiyoshi M, Kato K, Matsushima E, Kubota T	産婦人科
Int J Gynecol Obstet 114(2): 148-152, 2011	Effects of the Kampo medication kelshibukuryogan on blood pressure in perimenopausal and postmenopausal women.	Terauchi M, Akiyoshi M, Owa Y, Kato K, Obayashi S, Kubota T	産婦人科
Journal of Medical and Dental Sciences Vol.58 No.2, 2011	Relationship between estrogen, vasomotor symptoms, and heart rate variability in climacteric women.	Akiyoshi M, Kato K, Owa Y, Sugiyama M, Miyasaka N, Obayashi S, Kubota T, Aso T, Kimura T, Moritani T, Sato K	産婦人科
Br J Radiol. 84: 747-9: 2011	Brachytherapy for tongue cancer in the very elderly is an alternative to external beam radiation.	Khalilur R, Hayashi K, Shibuya H	放射線科
J Radiat Res. 52; 655-659: 2011	Low-dose-rate interstitial brachytherapy preserves good quality of life in buccal mucosa cancer patients.	Taylor A, Hayashi K, Yoshimura R	放射線科
Br J Radiol. 2011, 84; 930-938	Disease control using low-dose-rate brachytherapy is unaffected by comorbid severity in oral cancer patients.	Yoshimura R, Shibuya H, Hayashi K, Toda K, Watanabe H, Miura M	放射線科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hum Gene Ther. 2011;22:27-34	In Vivo Application of an RNAi Strategy for the Selective Suppression of a Mutant Allele.	Kubodera T	神経内科
Biochem Biophys Res Comm. 2011;405:204-209	Intraperitoneal AAV9-shRNA inhibits target expression in neonatal skeletal and cardiac muscles.	Mayra A, Mizusawa H, Yokota T	神経内科
Nat Med. 2011;17:175-178	Ultrasensitive human prion detection in cerebrospinal fluid by real-time quaking-induced conversion.	Atarashi R, Satoh K, Mizusawa H	神経内科
J Epidemiol. 2011;21:255-262	Duration of Prion Disease is Longer in Japan Than in Other Countries.	Nagoshi K, Mizusawa H	神経内科
PLoS One. 2011;6:e17723	Binding of pramipexole to extrastriatal dopamine D2/D3 receptors in the human brain: a positron emission tomography study using 11C-FLB 457.	Ishibashi K, Mizusawa H	神経内科
Mol Ther. 2011;19:2213-2221	Efficient In Vivo Delivery of siRNA Into Brain Capillary Endothelial Cells Along With Endogenous Lipoprotein.	Kuwahara H, Mizusawa H, Yokota T	神経内科
Mol Brain. 2011;4:35. [first 3 authors equally contributed]	Transplantation of human neural stem/progenitor cells overexpressing galectin-1 improves functional recovery from focal brain ischemia in the mongolian gerbil.	Ishibashi S, Mizusawa H	神経内科
Neurology. 2011; 77: 1853-1855	Pentanucleotide repeats at the spinocerebellar ataxia type 31 (SCA31) locus in Caucasians.	Ishikawa K, Mizusawa H	神経内科
Am J Neuroradiol. 2012; 33(2): 274-279	Different Patterns of Fornix Damage in Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus and Alzheimer Disease.	Hattori T, Mizusawa H	神経内科
Am J Neuroradiol. 2011;32:1681-1687	Altered microstructure in corticospinal tract in idiopathic normal pressure hydrocephalus: comparison with Alzheimer disease and Parkinson disease with dementia.	Hattori T, Mizusawa H	神経内科
Hum Gene Ther. 2011;22:711-719	High-density lipoprotein facilitates in vivo delivery of α -tocopherol-conjugated short-interfering RNA to the brain.	Uno Y, Mizusawa H, Yokota T	神経内科
Brain. 2012;135:833-846	Non-human primate model of ALS with cytoplasmic mislocalization of TDP-43.	Uchida A, Sasaguri H, Kimura N, Tajiri M, Ono F, Ohkubo T, Sakaue F, Kanai K, Hirai T, Sano T, Shibuya K, Kobayashi M, Ueno T, Yamamoto M, Kubodera T, Tomori M, Sakaki K, Enomoto M, Hirai Y, Yasutomi Y, Mochizuki H, Uchihara T, Kuwabara S, Mizusawa H, Yokota T	神経内科
Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery 64: 274-276, 2011	Two Pedicled perforator flaps combined with a fascia graft for a large lateral lumbar defect.	Mori H, Yano T, Tanaka K, Okazaki M	形成・美容外科
The Journal of Craniofacial Surgery 22: 1-5, 2011	The Reliability of and Indications for Pericranial Flaps in Anterior Skull Base Reconstruction.	Yano T, Tanaka K, Kisimoto S, Iida H, Okazaki M	形成・美容外科
Plast Reconstr Surg 128: 568-569, 2011	Low skin paddle pedicled latissimus dorsi flap with vascular supercharging: Possibility of complete survival of larger and/or more distal flap.	Okazaki M, Miyamoto S	形成・美容外科
J Craniofacial Surgery 22(2):482-485, 2011	Reliability of and Indications for Pericranial Flaps in anterior Skull Base Reconstruction.	T Yano	形成・美容外科
Skull Base 21:359-364, 2011	Review of skull base reconstruction using locoregional flaps and free flaps in children and adolescents.	T Yano	形成・美容外科
Lab Chip. 2011;11:1166-1167	Point-of-care testing system enabling 30 min detection of influenza genes.	Tojo N	検査部
J. Bone Miner. Metab. 30:238-42, 2012.	Severe hyperparathyroidism in a pre-dialysis chronic kidney disease patient treated with a very low protein diet.	Rai T	血液浄化療法部
臨床体液 38:85-90, 2011	急激な高尿酸血症の出現に漢方薬の関与が疑われた慢性腎臓病の1症例。	穂積光	血液浄化療法部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床透析, Vol.27, NO.12, 2011, P1619-1624	透析液の安全管理・第10回透析用水の化学物質汚染。	菅野有造	血液浄化療法部
(社)東京都臨床工学技士会誌 Vol.22 No.2 2012 第41号 P44-49	透析液浄化基準の経緯と今後の課題。	菅野有造	血液浄化療法部
関節外科, 30(1):35, 2011	高気圧酸素治療による再建ACLの治療促進。待機ACL再建術後のスポーツ復帰。	柳下和慶	高気圧治療部
Br J Haematol. 154:363-72, 2011	Outcome of unrelated cord blood transplantation in 88 patients with primary immunodeficiency in Japan.	Morio M, Kajiwara M	輸血部
Pathobiology 78(1):10-23,2011	Localization of the invadopodia-related proteins actinin-1 and cortactin to matrix-contact-side cytoplasm of cancer cells in surgically resected lung adenocarcinomas.	Akashi T	病理部
Exp Mol Pathol 92(1):160-166, 2011	Overexpression of MCM2 in myelodysplastic syndromes association with bone marrow cell apoptosis and peripheral cytopenia.	Suzuki S	病理部
Shock 2011;36: 332-338	Polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion therapy for septic shock	Miraca C, Tomita M	集中治療部
Japanese Journal of Acute Care Surgery, JJACS 1, 59-65, 2011	肝臓手術症例の治療成績。	大友康裕、辺見 弘、山本保博、益子邦洋、加地正人、相良淳一	救命救急センター
preliminary report 脳血管叢腫 26:23-28, 2011	くも膜下出血後の循環動態の解析に関する多施設共同研究。	磯谷栄二、佐藤洋平、大友康裕、大野喜久郎	救命救急センター
Japanese Journal of Acute Care Surgery, JJACS 1, 79-82, 2011	純的外傷性肝臓手術症例39例の検討。	八木龍幸、落合高徳、猪狩公宏、増田大博、西澤真人、河西玲央、塚本加奈子、太田俊介、伊藤浩光、藍原有弘、熊谷洋一、飯田達夫、熊田芳文、松本昭憲、篠原一彰、青井滋樹、大友康裕、山崎繁	救命救急センター
Int J Hematol.94:479-82,2011	Successful allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for chronic granulomatous disease with inflammatory complications and severe infection.	Kato K, Kojima Y, Kobayashi C, Mitsui K, Nakajima-Yamaguchi R, Kudo K, Yanai T, Yoshimi A, Nakao T, Morio T, Kasahara M, Koike K, Tsuchida M	細胞治療センター
Br J Ophthalmol.95:345-349,2011	Diagnosis of bacterial endophthalmitis by broad-range quantitative PCR.	Sugita S, Shimizu N, Watanabe K, Katayama M, Horie S, Ogawa M, Sugimoto Y, Mochizuki M	細胞治療センター
J Pathol.223:495-510,2011	Activated oncogenic pathways and therapeutic targets in extranodal nasal-type NK/T cell lymphomas revealed by gene expression profiling.	Ng SB, Selvarajan V, Huang G, Zhou J, Feldman AL, Law M, Kwong YS, Shimizu N, Nagami Y, Aozasa K, Salto-Tellez M, Chng WJ	細胞治療センター
Jpn J Ophthalmol.55(5):495-501, 2011;Jul 13.	Diagnosis of ocular toxoplasmosis by two polymerase chain reaction (PCR) examinations: qualitative multiples and quantitative real-time.	Sugita S, Ogawa M, Inoue S, Shimizu N, Mochizuki M	細胞治療センター
Blood.118(18):4919-4929, 2011;Nov 3.	Dysregulated MicroRNAs Affect Pathways and Targets of Biological Relevance in Nasal-type Natural Killer / T-cell Lymphoma.	Ng SB, Yan J, Huang G, Selvarajan V, Tay J, Lin B, Bi C, Tan J, Kwong YL, Shimizu N, Aozasa K, Chng W	細胞治療センター
PLoS ONE,6(11):e27271,2011;Nov 11	Epstein-Barr virus BART9 miRNA modulates LMP1 levels and affects growth rate of nasal NK T cell lymphomas.	Ramakrishnan R, Donahue H, Garcia D, Tan J, Shimizu N, Rice AP, Ling P	細胞治療センター
Graefes Arch Clin Exp.250(3):391-8,2012;Mar.	Detection of Candida & Aspergillus species DNA using broad-range real-time PCR for fungal endophthalmitis.	Sugita S, Shimizu N, Watanabe K, Katayama M, Horie S, Ogawa M, Sugimoto Y, Mochizuki M	細胞治療センター
Free Radical Biol. Med.52:607-615,2012.	Lycopene inhibits Helicobacter pylori-induced ATM/ATR-dependent DNA damage response in gastric epithelial AGS cells.	Jang SH, Lim JW, Morio T, Kim H	細胞治療センター
Blood.118:2376-84,2012.	Extensive gene deletions in Japanese patients with Diamond-Blackfan anemia.	Kuramitsu M, Sato-Otsubo A, Morio T, Takagi M, Toki T, Terui K, RuNan W, Kanno H, Ohga S, Ohara A, Kojima S, Kito T, Goi K, Kudo K, Matsubayashi T, Mizue N, Ozeki M, Masumi A, Momose H, Takizawa K, Mizukami T, Yamaguchi K, Ogawa S, Ito E	細胞治療センター
Biomaterials. 33:1563-72,2012.	Alleviation of rheumatoid arthritis by cell-transducible methotrexate upon transcutaneous delivery.	Lee SW, Kim JH, Park MC, Park YB, Chae WJ, Morio T, Lee DH, Yang SH, Lee SK, Lee SK, Lee SK	細胞治療センター

計 20件

合計 240件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原簿論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 宮坂 信之
管理担当者氏名	(総務課長) 菅瀬 真生 (管理課長) 長塚 正明 (医事課長) 工藤 晃

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 ①処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 ②病院日誌、各科診療日誌 ③エックス線写真	① 病歴管理室 ② 総務課 ③ 各診療科	[入院カルテ] 入院中は当該病棟で管理し退院後は病歴管理室で一括管理している。 [外来カルテ] 病歴管理室で一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課
	高度の医療の提供の実績	医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
第規一則号第一に掲げる十の体制第一の確保各号及び第九の二十三第一項	①入院患者数、外来患者 ②調剤の数を明らかにする帳簿	① 医事課 ② 薬剤部
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理対策室
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理対策室
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携支援センター患者相談室

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	安全管理対策室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	安全管理対策室
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	安全管理対策室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	安全管理対策室		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	(事務部長) 谷田 弘
閲覧担当者氏名	(総務課長) 菅瀬 真生
閲覧の求めに応じる場所	病院特別会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	78.9 %	算定期間	平成23年 4月 1日～平成24年 3月31日
算出根拠 A: 紹介患者の数			17,404 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,391 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			7,174 人
D: 初診の患者の数			33,609 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○インフォームドコンセントを徹底した患者本位の全人的医療，安全な医療の提供を行う。○医療現場でのインシデント報告を通しての検証及び事故防止対策を策定・実施する。○医療における基本の徹底と質の向上を図る。○上記の目的を実施するため，次の機構を組織 <p>(1) 安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施，各種マニュアルの策定及び研修等を行う。</p> <p>(2) リスクマネージャー会議…各診療科，中央診療部門の中核となる実務者で構成し，日常における安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。</p> <p>(3) 安全管理対策室…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに，事故防止に関する適宜マニュアルの追加並びに指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">○患者からの相談に対応するため，院内に患者相談室を置き，必要に応じ，関連部署との連絡調整を行い，相談内容を適切に処理する。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 19 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○医療事故防止に関する方策の検討・実施，各種マニュアルの策定及び研修等を行う。○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに，事故防止に関する指導を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 28 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○今、首都圏直下地震が発生したら…医科歯科大学は、どのように対応しますか？○東日本大震災における東北大学病院の取り組み	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○インシデント・アクシデント報告の内容分析○リスクマネージャー会議でのワーキンググループ	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (3) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 事故・インシデント等の情報収集、分析、改善。(2) 安全管理対策の立案・調整・周知・評価。(3) 職員への教育研修の企画、実施・マニュアルの作成。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>○職員に対する研修に関する基本方針</p> <p>(1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策について、職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。</p> <p>(2) 就業時の初期研修のほか、全職員および職種別対象を年数回開催する。</p> <p>(3) 研修の開催結果を記録。保存する。</p> <p>○感染症の発生状況の報告に関する基本指針</p> <p>MRSA等の感染を防止するため、「院内感染状況報告」を週1回程度作成し、対策室にて確認・検証を行うとともに、対策チームを通じ院内への情報提供・注意喚起に活用する。検討結果は委員会にて報告され、再確認等、活用する。</p> <p>○院内感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>異常発生時は、その状況および患者様への対応を病院長に報告する。対策室にて速やかに発生の原因を究明し改善策を立案するとともに状況に応じて委員会を開催する。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 1 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>○院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および研修等を行う。</p> <p>○エビネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。</p> <p>○定期的(週1回)な院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行う。</p> <p>○医療現場においての感染防止対策に関する取組みの評価を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○病院全職員を対象とした院内感染及び感染症等に関する研修の実施</p> <p>(1) クロストリジウム・ディフィシル感染症の診断から感染対策まで</p> <p>(2) 当院における抗菌薬の使用状況</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 定期的な医療現場の感染対策に関する環境整備の確認及び指導</p> <p>(2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供</p> <p>(3) 細菌検査担当者、薬剤部担当者とともに院内感染に関する情報を共有し改善に努める</p>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容： ○内服薬処方せんの記載方法に関する安全対策 ○持参薬の現状	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (④・無) ・ 業務の主な内容： ○医薬品の採用・購入 ○医薬品の管理 (麻薬等の管理方法等) ○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 ○患者に対する与薬や服薬指導 ○医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い ○他施設 (病院等、薬局等) との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (④・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○製薬会社MRからの情報収集 ○医薬品安全管理ニュースの作成、配布による情報提供	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 4 回
・ 研修の主な内容： ○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法 ○酸素療法 ○人工呼吸器の安全管理	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (①・無) ・ 保守点検の主な内容： ○人工呼吸器、血液浄化装置、体温維持装置、人工心肺、輸液ポンプ、シリンジポンプ 除細動器、診療用放射線照射装置等	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○MEニュースの作成、配布による情報提供 ○リスクマネージャー会議での周知	